


コンパクト 乾燥機

取扱説明書
9KV

安全上の大切なお知らせ

- このコンパクト乾燥機を取扱う場合には、正しい方法で正しく取扱うことが大切です。正しい取扱い方をしないと、予想しない事故を引き起こし、人身傷害や財産の損壊を起こす恐れがあります。
- 本機を改造しないでください。
- この「取扱説明書」では、予想できる限りの危険な状況をあらかじめ知っておいていただくために、警告の内容によって危険な状況を、そのアラートシンボルマーク（）とシグナルワード（危険、警告、注意）を付けて表示しています。

危険

この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況を示します。

警告

この表示は、指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性のある危険状況を示します。

注意

この表示は、指示に従わなかった場合、重傷または中程度の傷害を負う可能性のある危険状況を示します。

注意

この表示は、指示に従わなかった場合、物的損害の発生のみが予測されるような種類の危険状況を示します。

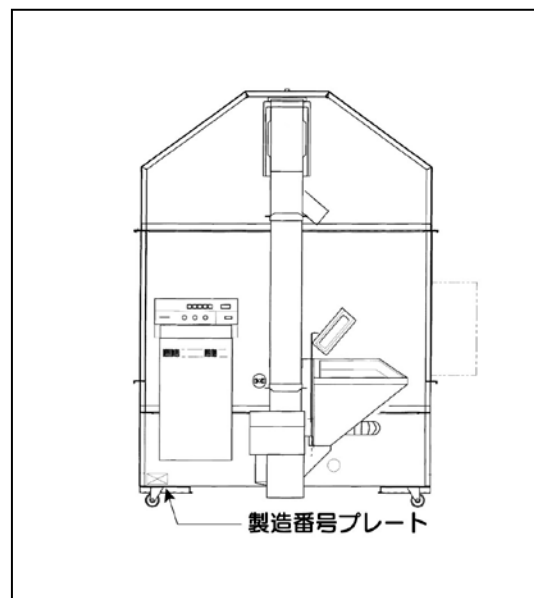
- 本機は、粉専用の乾燥機として設計してあります。その他の用途では使用できません。

- 本機の手扱いは、定められた管理者が、必ず安全運転教育を受けておこなってください。

はじめに

お買上げありがとうございました。

- この「取扱説明書」は、コンパクト乾燥機の安全に関する事項、運転手順および点検整備の手順を説明しています。
- この「取扱説明書」をよく読んで理解してから、本書の指示に従って本機の運転および点検整備をしてください。
 - 初めて使う方は、まず全体をよく読んでください。使ったことのある方は、少しでも疑問が生じたら、もう一度読んで確かめてください。
 - 本機を他の人に操作させる場合も、この「取扱説明書」を読んで理解するように十分指導してください。
 - 操作するときの重要な取扱いについては、その内容を線で囲み「注記」の文字を付してあります。
 - この「取扱説明書」は、本機のそばに置いて、いつでも誰でも参照できるようにしておいてください。もし、本書を紛失した場合は、購入先へ依頼して取り寄せ、必ず備え付けておいてください。
 - この「取扱説明書」に用いた写真や図は、本書を制作した時点のもので、コンパクト乾燥機は、製品改良により設計変更をすることがありますので、お客様の乾燥機の外観が本書の写真や図と部分的に異なることがあります。しかし、手順は同じですので、この「取扱説明書」の指示に従ってください。
 - 製品の製造番号プレートは、図示の位置に貼り付けてあります。この製品についてお問合せのときは、製造番号プレートに記載されている「型式名と製造番号」をお知らせください。
 - お買上げの製品またはこの「取扱説明書」についてご質問などありましたら、お買上げの購入先にお問合せください。
- この製品を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故などによる補償などの問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。



も く じ

(表紙裏) ▲ 安全上の大切なお知らせ		ページ
	はじめに	I
第1章	安全	1
1. 1	安全に関する重要警告事項	1
1. 2	火災予防に関する重要警告事項	3
1. 3	「警告ラベル」の貼付け位置	8
第2章	製品の概要	13
2. 1	仕様	13
2.1.1	主要諸元	13
2.1.2	外形寸法図	14
2.1.3	モータ出力	14
2.1.4	各部の規格	15
2. 2	各部の名称	17
2.2.1	本体各部の名称	17
2.2.2	操作盤の名称	18
2. 3	運転装置の構造・機能	19
2.3.1	本体各装置の作動	19
2.3.2	操作装置の作動	20
第3章	穀物乾燥の基礎知識	27
3. 1	調質（休止）乾燥	27
3. 2	その他の乾燥時の注意	28
第4章	運転前の準備	29
4. 1	排風ダクトの取付け	29
4. 2	安全の確認	31
4. 3	給油	34
4. 4	燃料配管のエア抜き	36
4. 5	電源の確認	37

		ページ
第5章	運転操作	41
5. 1	張込運転	41
5.1.1	張込運転の操作手順	42
5.1.2	張込運転の要領	43
5.1.3	水分測定（手動操作）の要領	44
5. 2	乾燥運転	45
5.2.1	乾燥運転の操作手順	45
5.2.2	水分補正ダイヤルの設定	49
5.2.3	穀物量（温度設定）ダイヤルの設定	51
5.2.4	水分設定ダイヤルの設定	53
5.2.5	自動水分制御	55
5. 3	排出運転	57
5.3.1	排出運転の操作手順	57
5.3.2	排出運転の要領	58
5. 4	通風運転	59
5.4.1	通風運転の操作手順	60
5.4.2	通風運転の要領	60
5.4.3	水分測定（手動操作）の方法	61
5. 5	タイマ運転	62
5.5.1	タイマ運転の操作手順	62
5.5.2	乾燥時間の決め方	63
第6章	故障診断	65
6. 1	モニタの異常表示	65
6. 2	異常現象別処置要領	67
6. 3	操作盤の名称	75
6. 4	バーナの名称	77
6. 5	本体各部のネクタ接続図	79
6. 6	操作盤のネクタ	80
6. 7	配線図	81
6. 8	バーナ配線図	82

		ページ
第7章	点検・調節・整備	83
7. 1	昇降機バケット平ベルトの点検・調節	84
7. 2	サンプルの取出し方	86
7. 3	残留穀物・塵の掃除の方法	86
7. 4	モータベルトの調節	88
7. 5	バーナストレーナの洗浄の方法	89
7. 6	消耗品	90
第8章	格納保管	91

第 1 章


安 全

本機の手扱いは始める前には、必ず下記の重要警告事項を読んで、理解してください。

1.1 安全に関する重要警告事項

⚠ 危険

1. 安全上の基本的危険事項

- (1) 子供を本機のそばで遊ばせないでください。子供は本機のスイッチ類をさわることがあり、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (2) 作業をするときは、右図のような作業にあつたきちんとした服装でおこなってください。機械に巻き込まれたりする恐れがあります。点検・整備をするときは、右図のような服装にくわえて、必要に応じてヘルメット、防護メガネ、手袋、マスクを着用してください。
- (3) 二人以上で作業をするときは、安全のために声を掛け合っておこなってください。一方の人が誤ってスイッチを押してしまうと、人身事故を起こす恐れがあります。
- (4) 本機の屋根に上がらないでください。屋根に上がると、転落して、死亡する恐れがあります。
- (5) 次に挙げる人は、作業をしないでください。
 - ① 飲酒し、酒気を帯びている人
 - ② 薬剤を服用し、作業に支障のある人
 - ③ 病気、負傷、過労等により、正常な作業が困難な人
 - ④ 年少者（18歳未満）

危険

2. 据付け時の危険事項

- (1) 据付場所は、運転操作・点検・調節・整備ができる明るい場所にしてください。暗い場所で運転操作・点検・調節・整備をすると、重大な事故を起こす恐れがあります。
- (2) 据付場所は、下記の条件を満たす場所にしてください。軟弱な地面や水平でない場所に設置すると、運転中に傾いてしまう恐れがあります。
 - コンクリートなどの不燃材料で作られた水平な場所であること。
 - 本機の全質量（仕様の項に明記）に長期間、十分耐えられる場所であること。

3. 燃料に関する危険事項

- (1) 燃料は、必ずJIS1号灯油を使用してください。他の燃料を使用すると、爆発を起こす恐れがあります。
- (2) ポリタンクや給油ポンプなど燃料を扱う器具は他の燃料と共用しないでください。燃焼不良の原因となることがあります。

4. 点検・調節・整備に関する危険事項

- (1) 本機の点検・調節・整備をおこなうときは、必ず電源スイッチを「切」にし、元電源側のコンセントからプラグを抜いてください。感電による死亡事故につながる恐れがあります。また、誰かが誤ってスイッチを押してしまう恐れがあり、大変危険です。
- (2) 本体および操作盤から必ずアースをとってください。アースをとらないと、漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。

警告

- (1) 運転中は、無人運転をしないでください。やむを得ず本機のそばを離れるときは、2～3 時間に一度の見回りをおこない、本機が正常に動いていることを確認してください。故障に気づかないで、そのまま運転し続けると、火災などの重大な事故を起こす恐れがあります。
- (2) 運転中または燃焼中は、火炉カバーを開けないでください。運転中または燃焼中に開けると、火傷や思わぬ事故につながる恐れがあります。
- (3) 本機の点検・調節・整備をおこなうとき、本機内に照明が必要なときは、必ず懐中電灯を使用してください。コンセントから引いた電灯を本機内に入れると、鉄板の端などでコードが損傷して漏電し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (4) 運転中または燃焼中は、排風ダクトの出口を屋外に出してください。屋内作業では排気ガスが充満し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。
- (5) 電気のコードを通路上に配置しないでください。つまりいて人身事故を起こす恐れがあります。

1.2 火災予防に関する重要警告事項

- 下記の項目は、火災を発生する原因となる恐れがあるので十分に守ってください。

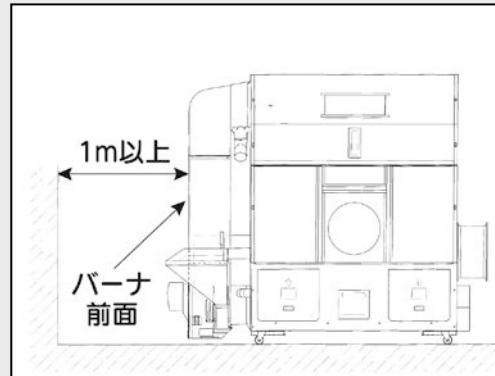
危険**1. 燃料に関する火災予防事項**

- (1) 給油するときは、火気を絶対に近づけないでください。

警告

1. 据付け時の火災予防事項

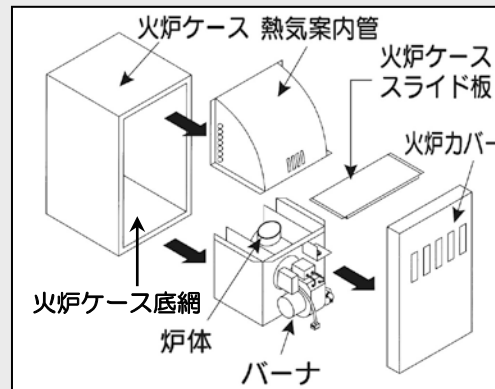
- (1) 本機のバーナ前面を、壁や遮へい物から 1m以上離れた位置に設置してください。



- (2) 本機は、バーナ前面を除いた各側面が壁から50cm以上離れるように設置してください。
- (3) 排風ダクトは、できるだけまっすぐに取り付けてください。絞り込んだり急な曲げ方をしたりしないでください。また、ダクトの出口から1m以内には遮へい物を置かないでください。

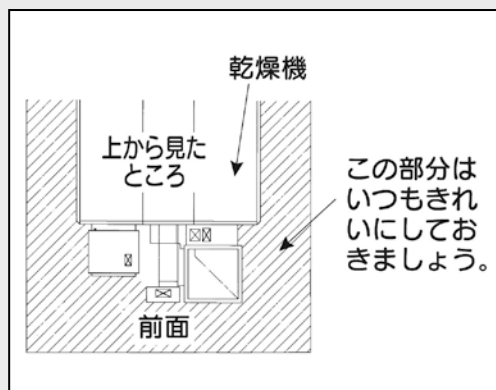
2. バーナに関する火災予防事項

- (1) バーナの炉体内部、火炉ケース内部、火炉カバーおよび火炉ケース底網には、燃えやすいごみなどがたまっていないように、よく掃除をしてください。火災だけでなく、熱風温度の異常により胴割れなどにつながることもあります。



警告

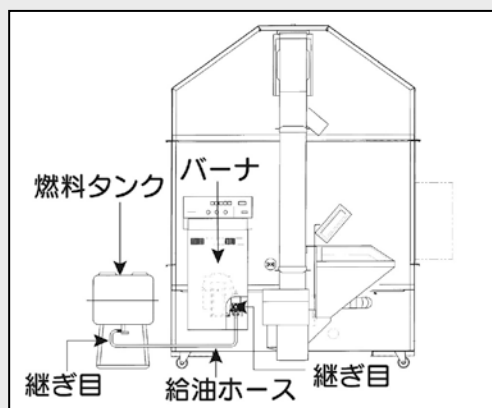
- (2) バーナ前面およびその周辺の床面などは、きれいに掃除し、燃えやすいものがないようにしてください。



- (3) サービスマン以外は、バーナおよび操作盤各部の分解・調節・整備をしないでください。
- (4) バーナの安全装置をはずしての運転は、絶対にしないでください。
- (5) 本機の上から燃えやすいものがバーナ付近に落下しないようにしてください。

3. 燃料に関する火災予防事項

- (1) 給油ホースの継ぎ目に油漏れが発見された場合は、原因を調べてなおすまでは、運転をしないでください。



 **警告**

- (2) こぼれた灯油は、必ずきれいに拭き取ってください。ほこりが堆積して火災になる恐れがあります。
- (3) 運転中に給油の必要が生じた場合は、本機が停止したことを確認してから燃料を補給してください。
- (4) 燃料タンクは、必ず標準装備のものを使用し、できるだけバーナから離して水平に据付けてください。
- (5) 給油ホース（フレキシブルチューブ）は、純正部品を使用してください。
- (6) 作業終了後、燃料タンクのコックを締めてください。何かのひょうしに油が漏れる恐れがあります。

4. 電源に関する火災予防事項

- (1) コード類は、電気用品安全法の適合マーク（PSE）製品を使用してください。
- (2) 配線は、電気工事会社に相談の上、内線規定に従って実施してください。
- (3) 元電源は、漏電ブレーカの付いた専用電源に接続してください。
- (4) 損傷したコード類は、使用しないでください。

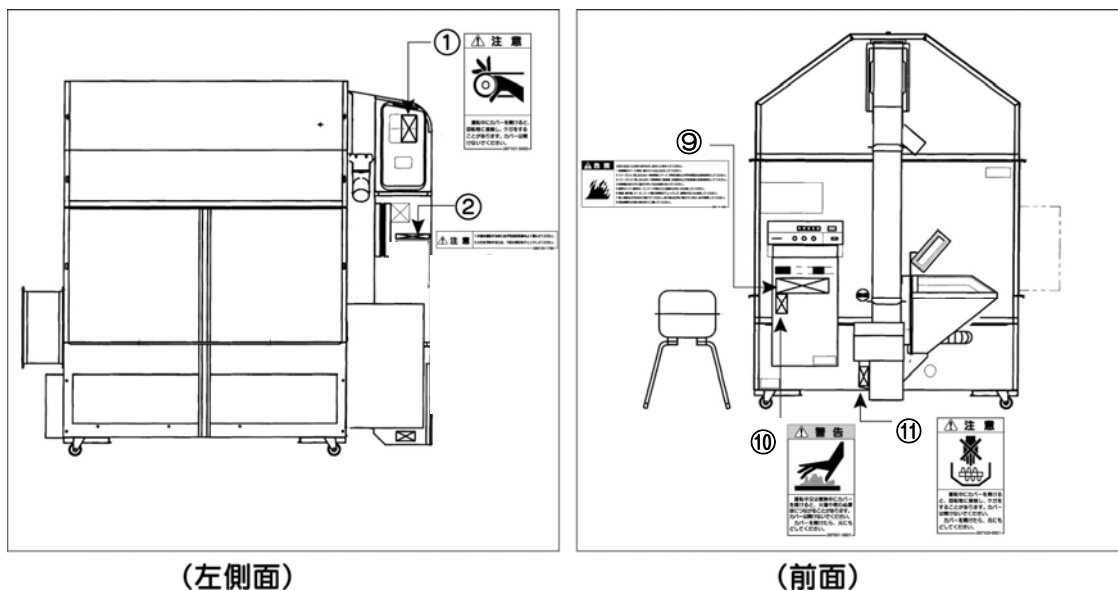
5. 乾燥運転中は、常に有効期限内の消火器を本機の付近に備え付けてください。初期消火に役立ちます。

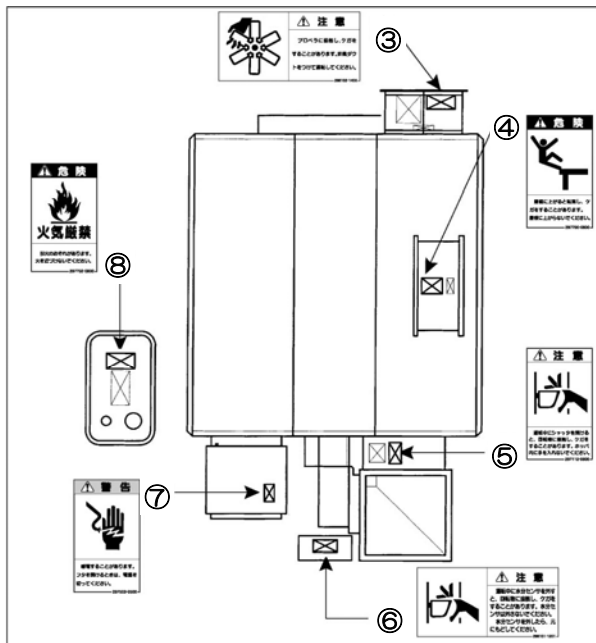
1.3 「警告ラベル」の貼付け位置

- 「警告ラベル」は、図示の位置に貼り付けてあります。
- この「警告ラベル」には、「危険マーク」・「警告マーク」・「注意マーク」の3種類があります。これらの警告の内容は、この「取扱説明書」の最初の「**▲**安全上の大切なお知らせ」のところの説明しましたことと同じです。必ずその指示に従ってください。
- これらの「警告ラベル」およびその他のラベルは、いつもきれいにし、人に見えるようにしておいてください。ラベルが紛失あるいは損傷した場合は、購入先から取り寄せ、所定の場所に貼り付けてください。

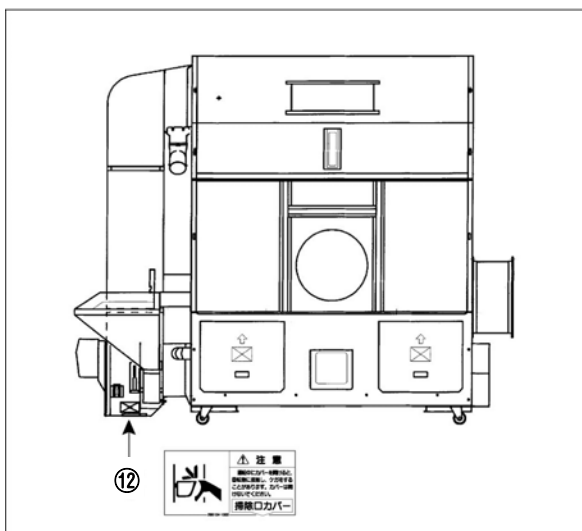
注 記

- 本機の右側または左側とは、操作する人が本機の前面に向かって立った位置での右または左を指します。

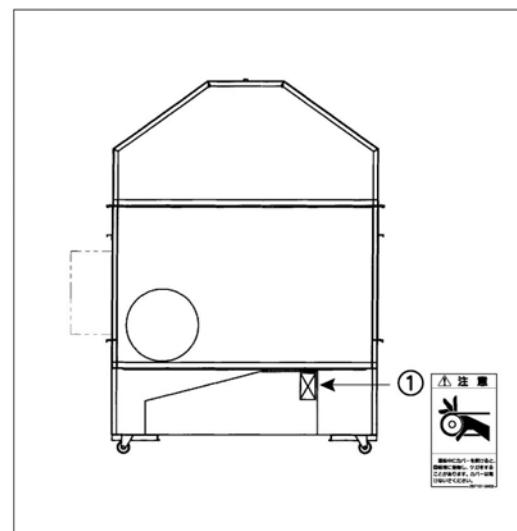




(頂面)



(右側面)

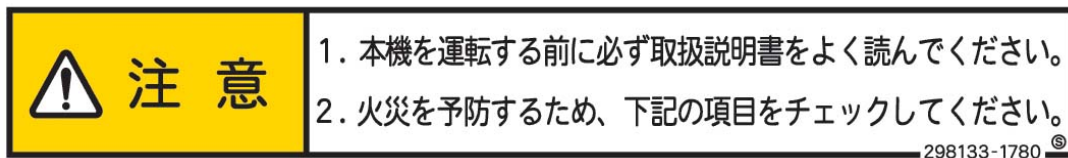


(後面)

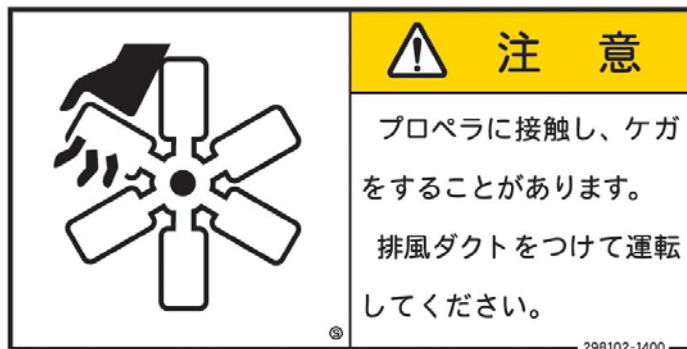
① ベルト注意マークAV80



② 取扱注意マークEH178



③ プロペラ注意マークAH140



④ 転落危険マークAV80



⑤ シャッタ注意マークAV60



⑥ 水分センサ注意マークAH120





⑦ 感電警告マークAV50



⑧ 火気危険マークAV80



⑨ 取扱危険マークAH280

 危険	<p>火災になることがありますので、次のことを守ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乾燥機のバーナ部を、壁から1m以上離してください。 2. 1シーズンに1回、または5~6乾燥毎にバーナ、炉体内部および炉体周辺の点検清掃をしてください。 3. 1シーズンに1回、または5~6乾燥毎に熱風路、排風路および送風機の点検清掃をしてください。 4. 乾燥機のまわりに燃えやすいものを置かないでください。 5. 排風ダクトの出口から1m以内には、物を置かないでください。排風の抵抗になります。 6. 燃料タンク、燃料ホース、バーナ部などに油漏れがないか点検してください。 7. 電源、操作盤、モータ、コード類の損傷をチェックして、漏電がないか点検してください。 8. 無人運転はできるだけ避けてください。点火後は正常に燃えているか、必ず確認してください。 9. 有効期限内の消火器を近くに置いてください。
	<small>298700-2800</small>

⑩ 火傷警告マークAV60

 警告

<p>運転中又は燃焼中にカバーを開けると、火傷や思わぬ事故につながる可能性があります。カバーは開けないでください。カバーを開けたら、元にもどしてください。</p>
<small>297501-0601</small>

⑪ スクリュー注意マークAV50

 注意

<p>運転中にカバーを開けると、回転物に接触し、ケガをすることがあります。カバーは開けないでください。カバーを開けたら、元にもどしてください。</p>
<small>297103-0501</small>

⑫ 掃除口注意マークBH100

 注意

<p>運転中にカバーを開けると、回転物に接触し、ケガをすることがあります。カバーは開けないでください。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 掃除口カバー </div>
<small>298104-1000</small>

第 2 章

製品の概要

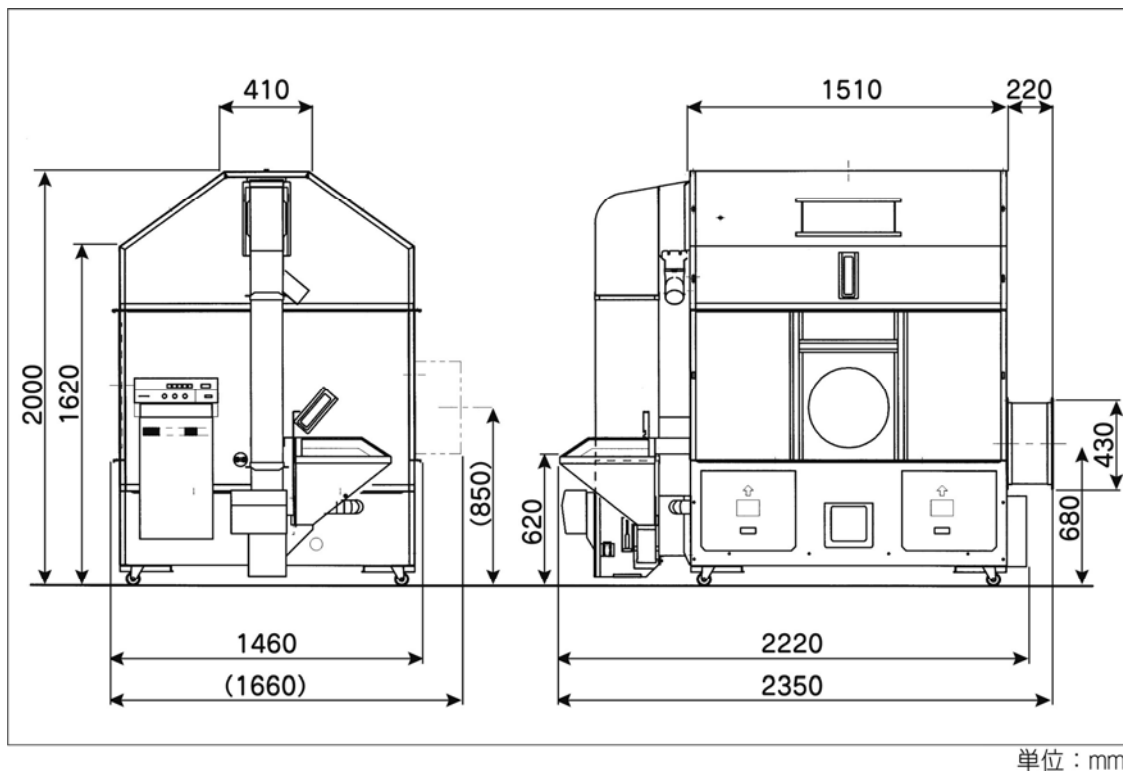
2.1 仕様

2.1.1 主要諸元

項 目		単 位	仕 様	
型 式 名		—	CD-9KV	
処理量	粉 560kg/m ³	kg	200~900	
機 体 寸 法	全 長	mm	2350 ※(送風機側面取付け時2220)	
	全 幅	mm	1460 ※(送風機側面取付け時1660)	
	全 高	mm	2000	
機 体 質 量		kg	330	
送 風 機	型 式 名	—	YJF-38	
	種 類	—	軸流式	
	常 用 回 転 速 度	rpm	1420(50Hz)・1720(60Hz)	
乾 燥 方 式		—	熱風式	
バ ー ナ	型 式 名	—	GK-14C	
	種 類	—	ガンタイプ	
	燃 焼 量	ℓ/h	1.4(ノズル0.4ガロン)	
使 用 燃 料		—	JIS1号灯油	
燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	60	
定 格 電 圧		V	単相100/200	
所 要 動 力	定 格	送 風 機	kW	0.12
		下 ス ク リ ュ ー	kW	0.15
	昇 降 機	kW	0.2	
	出 力	コ ン ト ロ ー ラ	kW	0.05
		バ ー ナ フ ァ ン	kW	0.015
		水 分 セ ン サ	kW	0.015
最大同時使用電力		kW	0.55	
性 能	張 込 時 間	min	12~15	
	排 出 時 間	min	20~25	
	毎 時 乾 減 率	%/h	0.6~0.8	
諸 装 置	安 全 装 置	—	エアフローズスイッチ・炎センサ・感震装置 過電流検出装置・高温サーモ	
	運 転 制 御 方 式	—	乾燥速度制御、水分自動停止制御、乾燥温度自動制御	

- (1) 主要諸元の仕様値は、農業機械主要諸元記載要領に基づきます。
- (2) オプションについての仕様は、各々のオプション用の「取扱説明書」を参照してください。

2.1.2 外形寸法図

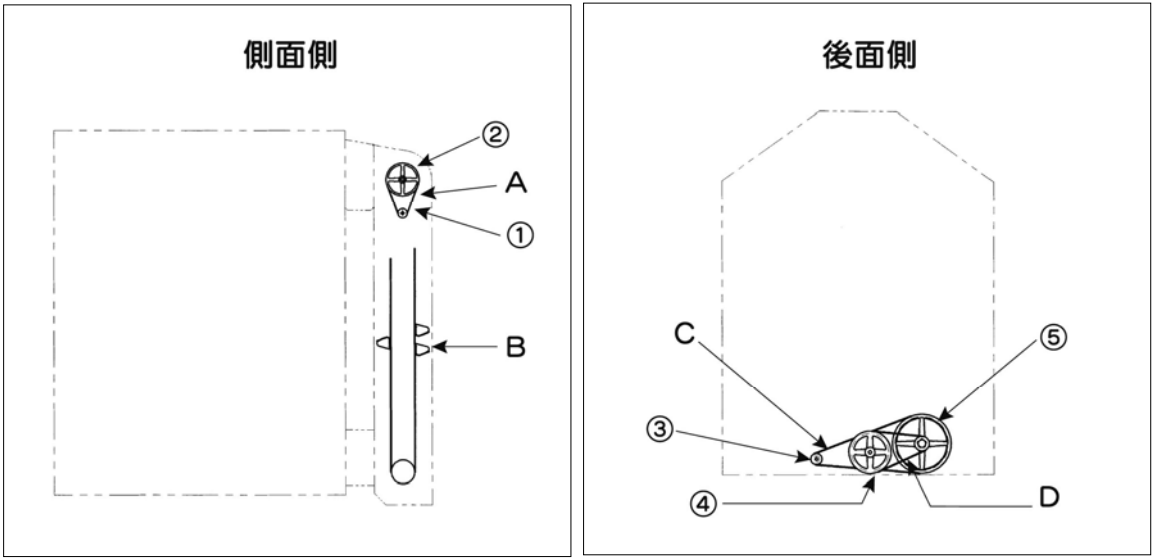


2.1.3 モータ出力

単位：W

種類 作業	昇降機	スクルー コンベヤ	送風機	パーナ ファン	水分 センサ	制御系	合計
出力	200	150	120	15	15	50	
張込	○		○		○	○	385
通風	○	○	○		○	○	535
乾燥	○	○	○	○	○	○	550
排出	○	○	(○)			○	400 (520)

2.1.4 各部の規格



番号	名称	規格	個数
A	リブスターベルト	280-J-4	1
B	昇降機平ベルト	115 (幅) × 2.5 (厚)	1
	(バケット個数)	長さ 3490 (22個)	
C	Vベルト	LA66	1
D	Vベルト	LA40	1
①	4リブプーリ40・48	φ40・48	1
②	4リブプーリ172	φ172	1
	軸受	ベアリング 6203UUJ	2
③	モータプーリ	φ58・49	1
④	Vプーリ/A220A	φ220	1
	軸受	ベアリング 6203UUJ	1
		含油 19.4×23×30	1
⑤	中間軸プーリ	φ305・76	1
	軸受	ベアリング 6203ZZ	2

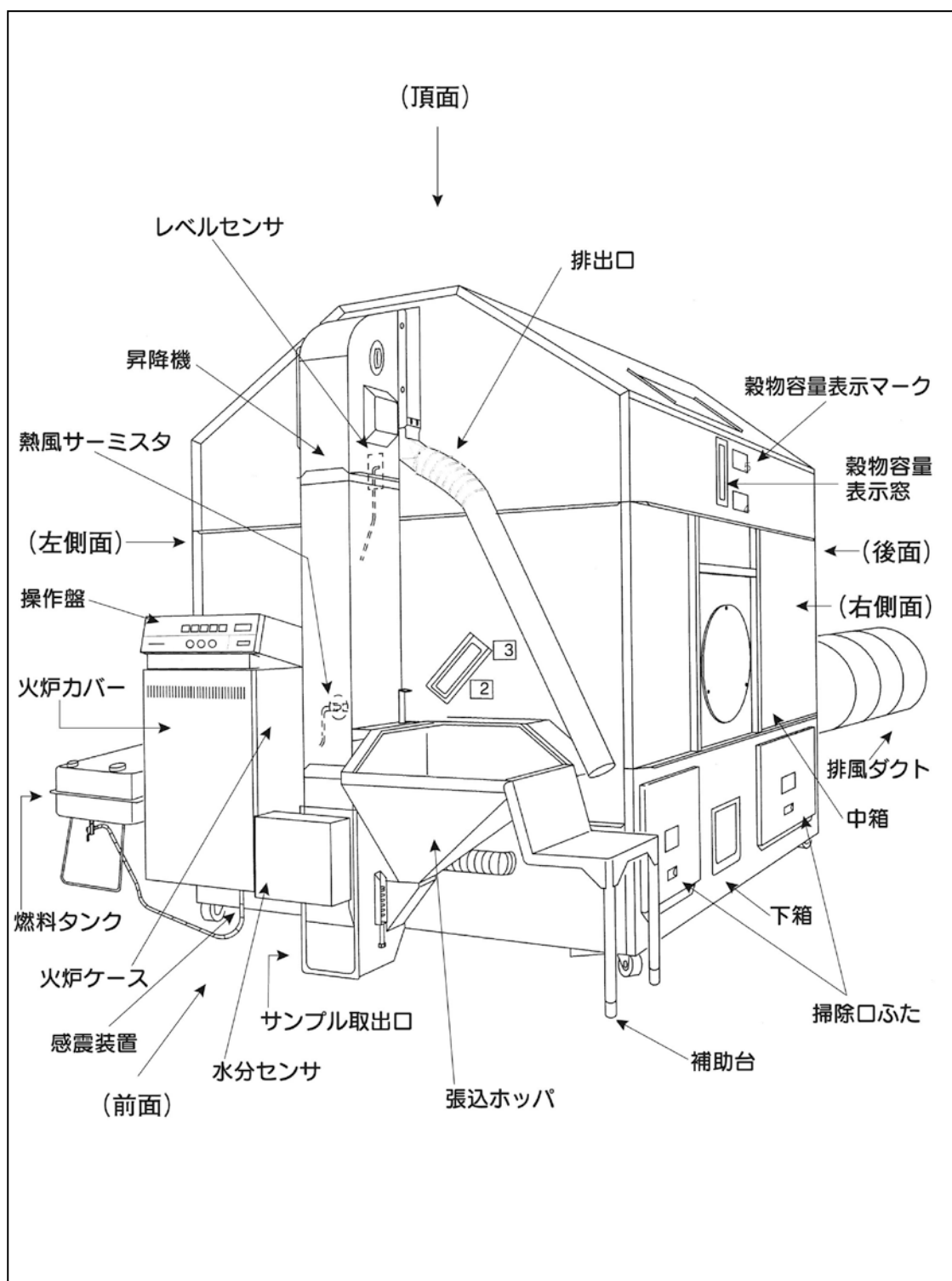
● 排出パイプの規格

名称	寸法 (mm)	
	径	全長
排出パイプ A	φ87	914

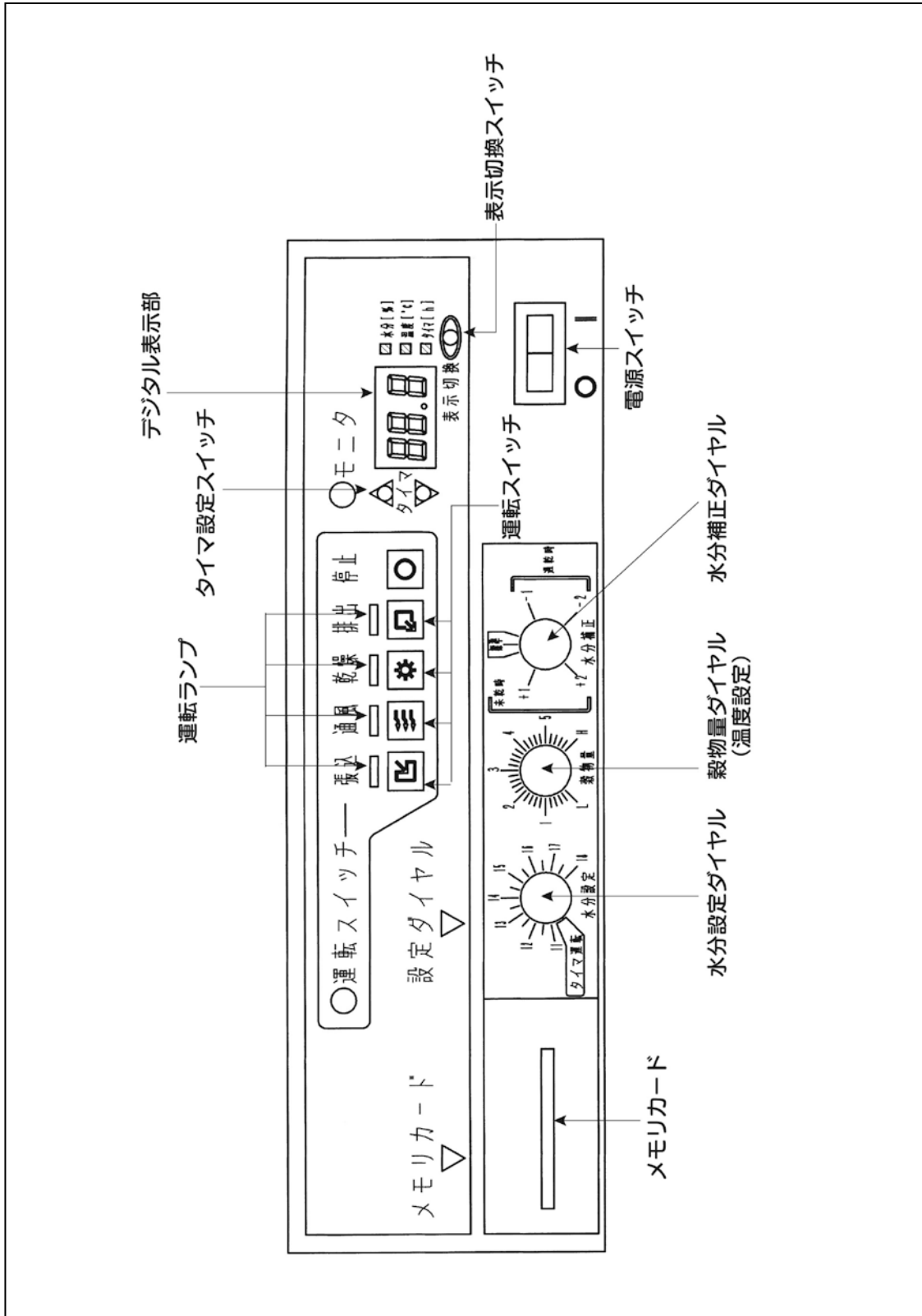
- 排出パイプの径は規格化されています。排出パイプの径が同じ場合は、再利用可能です。

2.2 各部の名称

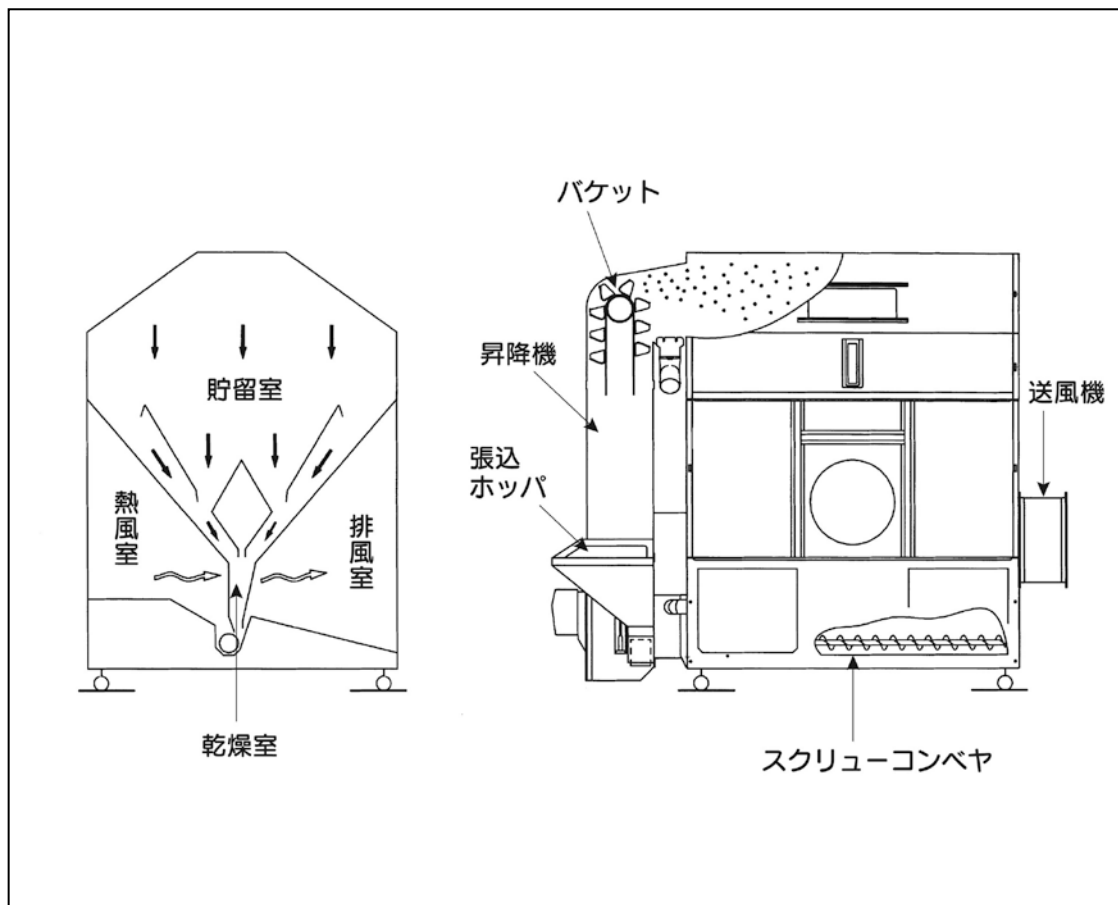
2.2.1 本体各部の名称



2.2.2 操作盤の名称



2.3 運転装置の構造・機能



2.3.1 本体各装置の作動

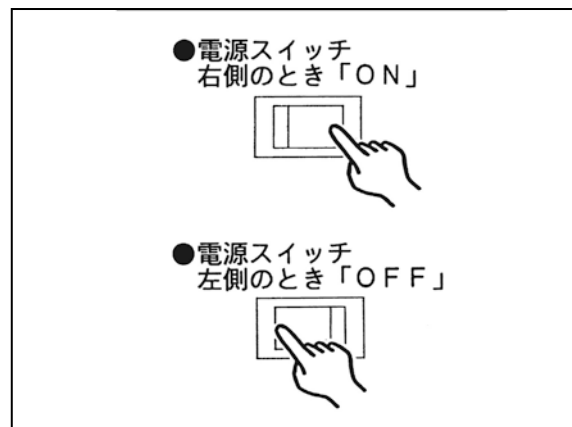
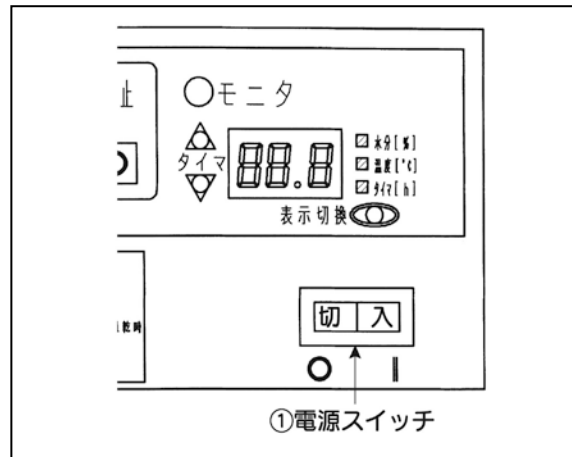
- (1) 穀物は、らせん状のスクリーコンベヤにより昇降機の下部に移送されます。
- (2) 穀物は、昇降機のバケットにより上部に移送され、そのままバケットにより貯留室に投げ込まれます。
- (3) 運転スイッチの乾燥スイッチを押すと、送風機が回転し、つづいて他のモータが作動すると同時にガンタイプバーナの燃焼が始まり、穀物の乾燥が始まります。
- (4) バーナから発生した乾燥熱風は、左の熱風室に入り、送風機により吸引されて、乾燥室内の穀物層を通り、右の排風室から排風されます。
- (5) このようにして水分を放出した穀物は、再度スクリーコンベヤと昇降機により上部に移送されて循環します。

2.3.2 操作装置の作動

● 電源部

① 電源スイッチ

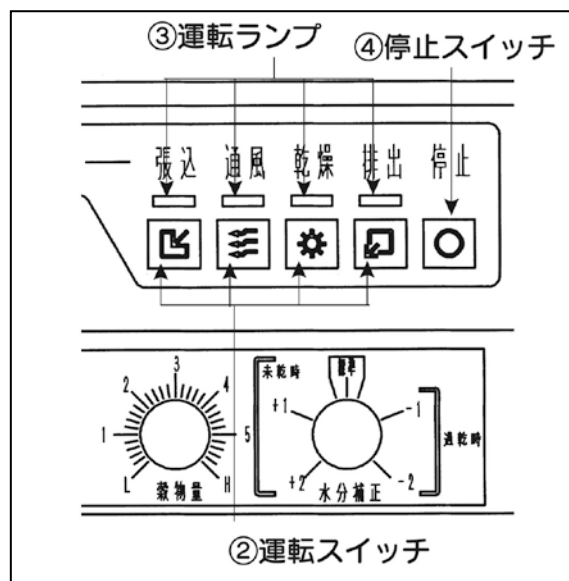
操作盤の主電源です。
電源スイッチを「入」にすると、
電源スイッチ内臓ランプが点灯し
ます。



● 運転スイッチ部

② 運転スイッチ

作業の内容により、いずれかのスイッチを押します。
 張込、通風、乾燥、排出の作業をおこなうときは、各々のスイッチを押すことにより作業が始まります。



③ 運転ランプ

運転スイッチを押したところのランプが点灯します。

④ 停止スイッチ

本機を停止したり、作業を変更したりするときに、このスイッチを押します。
 また、エラーにより停止したときは、このスイッチを押してクリアにします。

● モニタ部

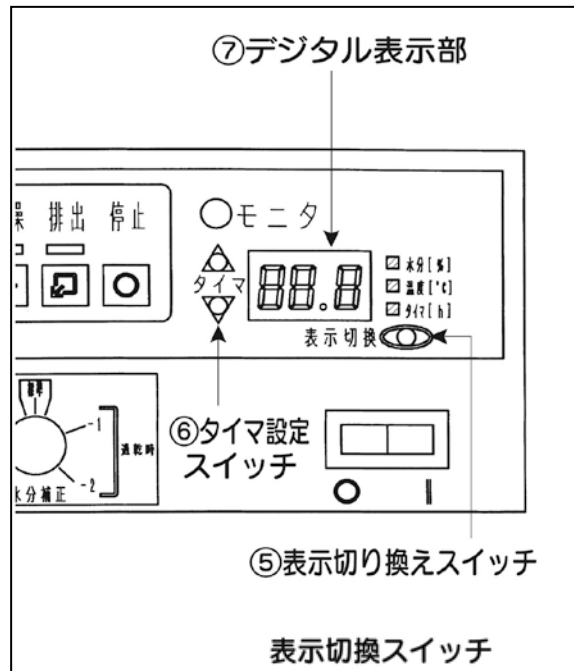
⑤ 表示切換（水分測定）スイッチ

乾燥運転中は、通常水分を表示し、スイッチを押すことにより、デジタル表示部に熱風温度を表示します。

タイマ運転中は通常タイマの残時間を表示し、スイッチを押すことにより、熱風温度を表示します。また、張込運転中と通風運転中は機内水分測定用のスイッチとなり、押すとデジタル表示部に **— — . —** を表示して、約 1 分 40 秒後に水分値を表示します。

停止中は、スイッチを押すことにより、

現在までの稼動時間を 3 秒間表示します。デジタル表示部の数字を 100 倍したものが現在までの稼動時間です。**0.1** の場合は 10 時間、**19.9** の場合は 1990 時間となります。



⑥ タイマ設定スイッチ

タイマ運転をおこなうときにこのスイッチで時間の設定をします。▲を押すと設定時間は増加し、▼を押すと減少します。設定時間は 30 分単位で最大 24 時間まで可能です。

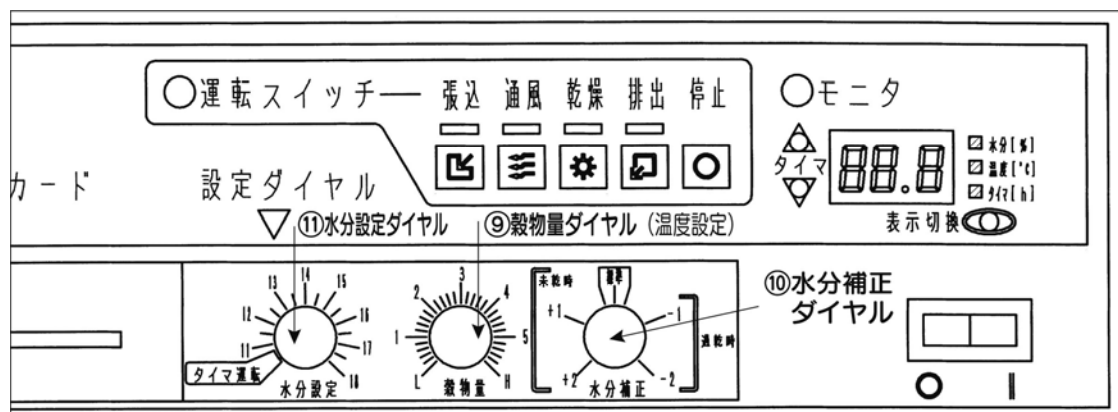
自動運転からタイマ運転に変えた場合は自動的にタイマが 1 時間にセットされます。タイマ運転にセットした状態で電源を投入しても、タイマが 1 時間にセットされます。排出運転のときは自動的に 3 時間にセットされます。

⑦ デジタル表示部

乾燥運転中は、通常、水分を表示し、表示切換スイッチで切り換えることにより熱風温度を表示します。タイマ運転のときは、通常タイマの残時間を表示します。そのときの表示の区別を水分・温度・タイマのランプで示します。

その他、異常の場合は、異常表示をします。（【異常表示の例】（25 ページ）を参照してください。）

● 設定ダイヤル部



⑨ 穀物量（温度設定）ダイヤル

張り込んだ量を示している本体の穀物容量表示マークの数字と同じダイヤル目盛りに合わせてください。そのとき外気温と穀物量とから適正な熱風温度の設定が自動的におこなわれます。

また、このダイヤルの小目盛りは約1℃刻みになっていますので、乾燥途中で温度調節したいときは、右に回せば高温、左に回せば低温になります。

⑩ 水分補正ダイヤル

水分表示の補正として使用します。

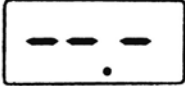
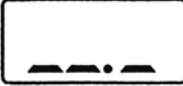
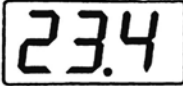
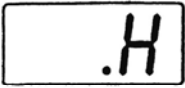
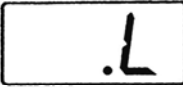
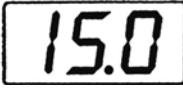

⑪ 水分設定ダイヤル

乾燥運転をするときに、目標とする仕上水分値に合わせてください。穀物の水分値（デジタル表示の水分値）が設定された仕上水分値と同等、またはそれ以下になると、本機は自動的に停止します。


ダイヤルを「タイム運転」の位置に合わせると、水分測定および水分による停止はせず、タイマが切れるかまたは停止スイッチを押すまで運転（乾燥運転）し続けます。

デジタル表示の例

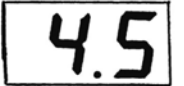
【水分表示の例】

 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H] 	 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H] 	 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
<p>①サンプリング表示（1回目） ②手動操作水分測定時表示 （張込・通風時）</p>	サンプリング表示（2回目）	水分表示
 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H] 	 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H] 	 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
高水分表示 （30%以上〔気温20℃時〕）	低水分表示 （12%以下〔気温20℃時〕） エラー表示（サンプリングミス） （乾燥運転時は.LとEn.dの1秒ごと交互表示）	 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
		乾燥終了表示 （水分値とEn.dの交互表示）


【熱風温度表示の例】

 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水分[%] <input checked="" type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]

【タイマ表示の例】

 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input checked="" type="checkbox"/> タイマ[H]
<p>残時間表示 （タイマ運転時のみ表示）</p>

【満量表示の例】

 <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
--

【異常表示の例】

E 12 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

CdSショート

E 14 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

CdS外光感知

E 15 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

CdS汚れ（感度不足）

E 16 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

バーナ異常

E 22 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

エアフロースイッチ
 ショート

E 25 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

エアフロースイッチ
 不導通

E 35 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

感震装置作動

E 46 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

モータ過負荷（搬送・送風）

E 75 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

高温サーモ不導通

E 81 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

気温サーミスタ断線

E 82 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

気温サーミスタショート

E 91 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

熱風サーミスタ断線

E 92 水分[%]
温度[°C]
タイマ[H]

熱風サーミスタショート

注 記

- 異常表示は、前頁の文字が1秒ごとに点滅します。
ただし、乾燥運転時に水分測定をした後に異常が起こった場合は、水分値も交互に表示します。
- 異常表示されたときは、本機は自動的に停止します。この場合は、いったん停止スイッチを押して、表示をクリアしなければなりません。
- 感震装置の作動による制御は、乾燥運転中のみです。

第 3 章

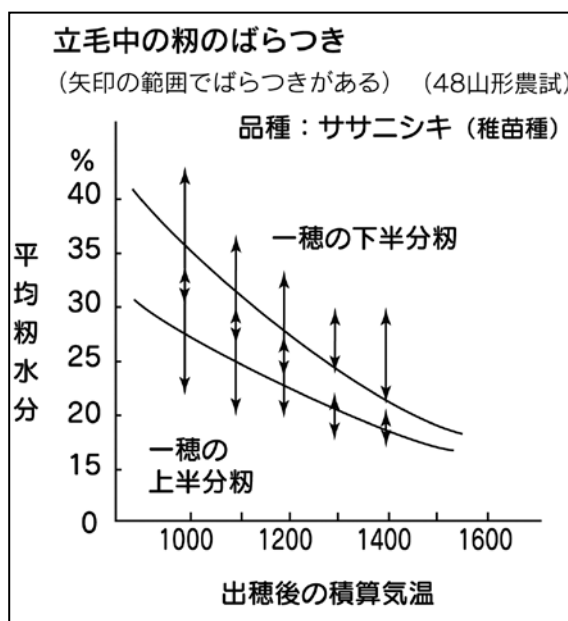
穀物乾燥の基礎知識

3.1 調質（休止）乾燥

- 消費者に喜ばれる品質の良い米作りについては、各地の指導機関が様々な指導書や手引書を出しています。そうした指導書や手引書によりますと、品質のよい米作りは、栽培技術や収穫方法なども大きく影響しますが、1年間の仕上作業として、乾燥作業を特に入念におこなうことが必要であることを一様に述べています。特に、乾燥作業として調質乾燥をすすめる指導が多くなってきています。
- 調質乾燥とは、生粃が18~19%の水分になるまで通常の乾燥をおこない、その後いったん乾燥機を止めて休止し、この間に粃水分を均一化する乾燥のことをいいます。このことから、調質乾燥のことを休止乾燥ともいいます。休止時間は、できるだけ長い方がよいのですが、次の作業のことも考慮して、4~6時間とし、その後再乾燥して仕上げます。

調質乾燥の必要性

- (1) 刈取りの初期は、未熟粒が多く、また右図でもみられるように、粃と粃の水分差が一穂の中でも大きく、水分ムラがあります。こうした粃を連続乾燥した場合は、仕上がったときでも水分ムラが残り、平均水分値をとらえにくくなります。また、粃すりまでの間に水分のもどりや、平均水分値より水分の低い整粒の胴割れが発生しやすくなります。



- (2) 高水分の粃を連続乾燥すると、乾燥時間が長くなり、乾燥末期の穀温が上昇しますので、胴割れが起こりやすくなります。

- (3) 夜間の運転は、気温が低く湿度が高くなることから、燃料消費量が多くなり、乾燥効率が悪くなることがあります。

- このようなことを防ぐには、できるだけ夜間に調質乾燥をすることです。

これにより次のような利点がでてきます。

- (1) いったん温められた粳が休止に入ることにより、粳と粳との間で水分が移行し、粳全体の水分が均一化して、仕上がった水分のムラが少なくなります。また、乾燥後の水分のもどりも少なくなります。
- (2) 穀温をいったん下げますので、穀温の上がり過ぎがなく、また一粒中の水分傾斜が少なくなりますので、胴割れが起きにくくなります。
- (3) 乾燥効率の悪い夜間（低温高湿時）の乾燥を休止しますので、省エネにもつながります。
- (4) 夜間の騒音防止にもなります。

- このような理由から、夜間に乾燥を中断して、調質乾燥することをおすすめします。

3.2 その他の乾燥時の注意

- (1) 種用粳は発芽勢、発芽率を低下させないようにするため、低温で乾燥してください。
- (2) 酒米は、粒が大きく胴割れしやすいため標準より低温で乾燥してください。品種によって注意しなければならない点もありますので、地域の指導機関に相談してください。
- (3) もち米は、白くはぜらせる必要があります。はぜにくい品種や胴割れしやすい品種がありますので、品種に合わせて低温でゆっくりと乾燥してください。
- (4) 粳の乾燥終了直後は、送風運転をさけてください。水分が仕上がったときより進んだりもどったりすることがあります。また、胴割れが起こったりすることがあります。

第 4 章

運 転 前 の 準 備

4.1 排風ダクトの取付け

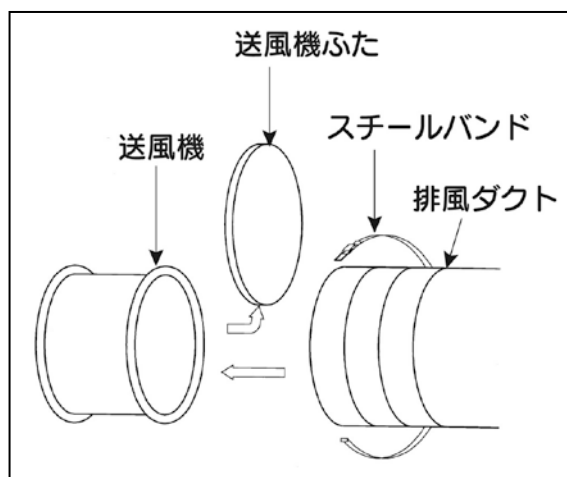
⚠ 警告

- 排風ダクトは、できるだけまっすぐに取り付けてください。絞り込んだり、急な曲げ方をしたりしないでください。また、ダクトの出口から 1m 以内には遮へい物を置かないでください。火災の原因となる恐れがあります。

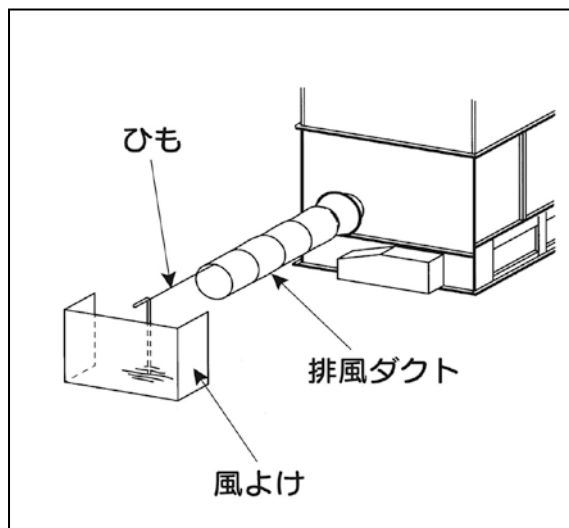
⚠ 注意

- 排風ダクトをはずしたまま、本機を運転しないでください。送風機のプロペラに手を触れると、重傷を負うことがあります。

- ① 送風機の出口に取り付けてあるねずみ侵入防止用の送風機ふたを取りはずしてください。
- ② 排風ダクトを送風機の出口の外側に差し込み、スチールバンドを締め付けて固定してください。



- ③ 排風ダクトは、できるだけまっすぐにして出口を屋外に出し、その先端のひもで張ってください。



警告

- 排風ダクトの出口を屋外に出してください。
屋内作業では排気ガスが充満し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

注 記

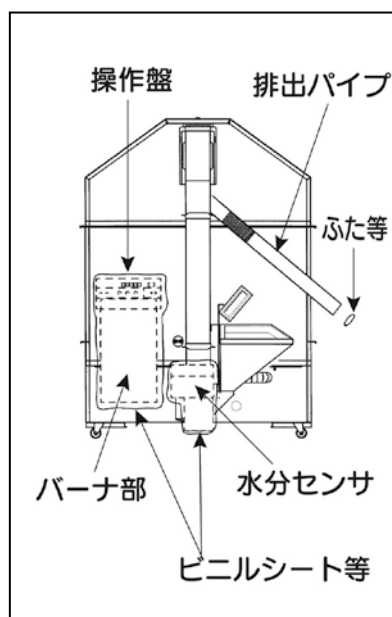
- 排風ダクトの出口に風が吹き込むようなときは、風よけを設けてください。

注 記

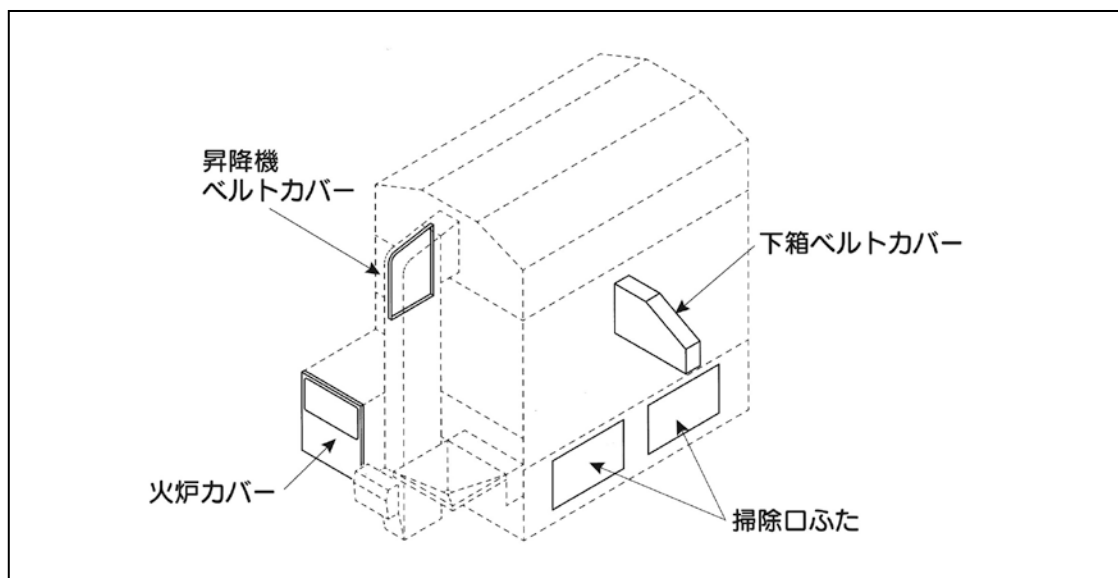
- 集塵装置を使用するときは、メーカー指定のものを使用してください。

注 記

- 格納保管時に排出パイプやスローフパイプ(オプション)などの出口に取り付けたねずみ侵入防止用のふたや栓等も取りはずしてください。
- 格納保管時に操作盤、水分センサ、バーナ部および各モータ部をおおった湿気・雨水侵入防止用のビニルシート等も取りはずしてください。

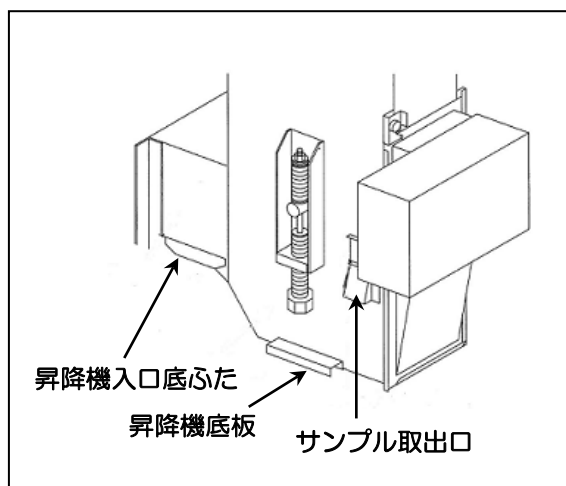


4.2 安全の確認



- ① 昇降機ベルトカバー、火炉カバー、掃除口ふた、および下箱ベルトカバーが取り付けられていることを確認してください。

- ② 昇降機入口底ふた、サンプル取出口および昇降機底板が閉じていることを確認してください。



警告

- バーナの炉体内部、熱風路内部、火炉カバー裏網および火炉ケース底網には、燃えやすいごみなどがたまっていないようにしてください。火災の原因となる恐れがあります。

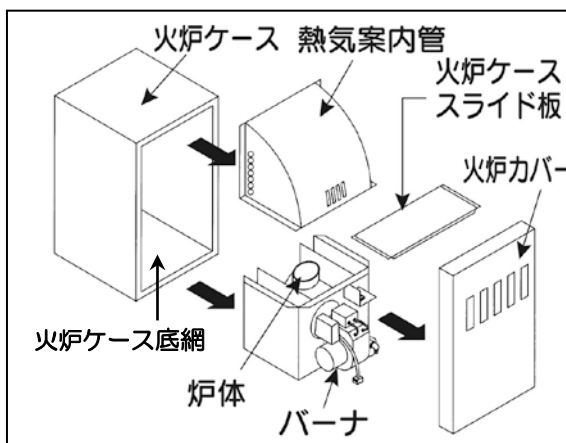
注意

- バーナ各部は汚れたままにしないでください。熱風温度の異常により胴割れなどにつながる可能性があります。

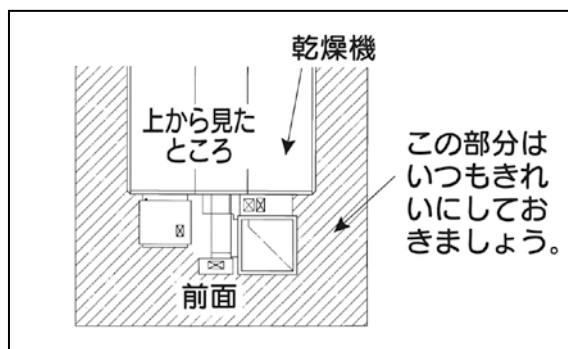
- ③ バーナの炉体内部、火炉ケース内部、および火炉ケース底網がきれいになっていることを確認してください。

- ④ バーナの炉体内部にカーボンなどが付着していないことを確認してください。

付着している場合は、バーナ修理のため購入先へご連絡ください。



- ⑤ 本機の前面およびその周辺の床面などが、きれいになっていることを確認してください。



警告

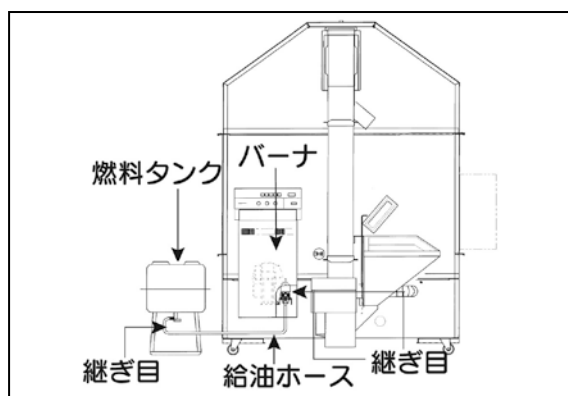
- バーナ前面およびその周辺の床面などは、きれいに掃除し、燃えやすいものがないようにしてください。火災の原因となる恐れがあります。

- ⑥ 本機の上に燃えやすいものが置いてないことを確認してください。

警告

- 本機の上から燃えやすいものがバーナ付近に落下しないようにしてください。火災の原因となる恐れがあります。

- ⑦ 燃料タンクとバーナをつなぐ給油ホースの継ぎ目に油漏れがないことを確認してください。



警告

- 給油ホースの継ぎ目に油漏れが発見された場合は、原因を調べてなおすまでは、運転をしないでください。火災の原因となる恐れがあります。

警告

- 燃料タンクは、必ず標準装備のものを使用し、できるだけバーナから離して水平に据付けてください。火災の原因となる恐れがあります。

警告

- 給油ホース（フレキシブルチューブ）は純正部品を使用してください。火災の原因となる恐れがあります。

4.3 給油

● 燃料タンクと給油ホースについて

燃料タンク	管用平行ねじG1/4 (PF1/4)
-------	--------------------

給油ホース 全長2000mm	燃料タンク側	バーナ側
	管用平行ねじG1/4 (PF1/4)	専用ワンタッチ

- 燃料タンクと給油ホースの取付部は規格化されています。規格が同じ純正部品は、再利用可能です。

注意

- ポリタンクや給油ポンプなど燃料を扱う器具は他の燃料と共用しないでください。燃焼不良の原因となることがあります。

危険

- 燃料は、必ずJIS1号灯油を使用してください。他の燃料を使用すると、爆発を起こす恐れがあります。

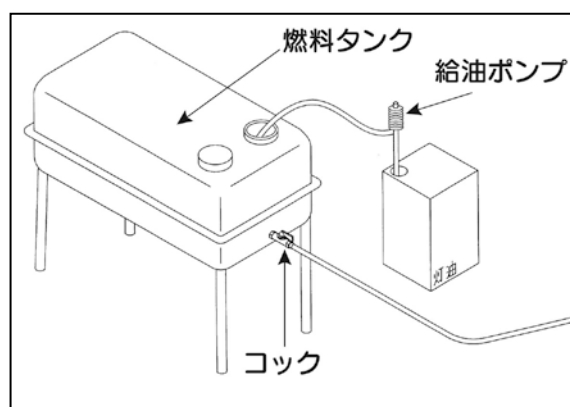
⚠ 危険

- 給油するときは、火気を絶対に近づけないでください。給油中に火気を近づけると、火災の原因となる恐れがあります。

⚠ 警告

- 給油の際にこぼれた灯油は、必ずきれいに拭き取ってください。火災の原因となる恐れがあります。

- ① 燃料タンクのコックを「閉」にしてください。
- ② 燃料タンクの給油口のふたをはずしてください。
- ③ 給油ポンプを使用して燃料タンクに給油してください。

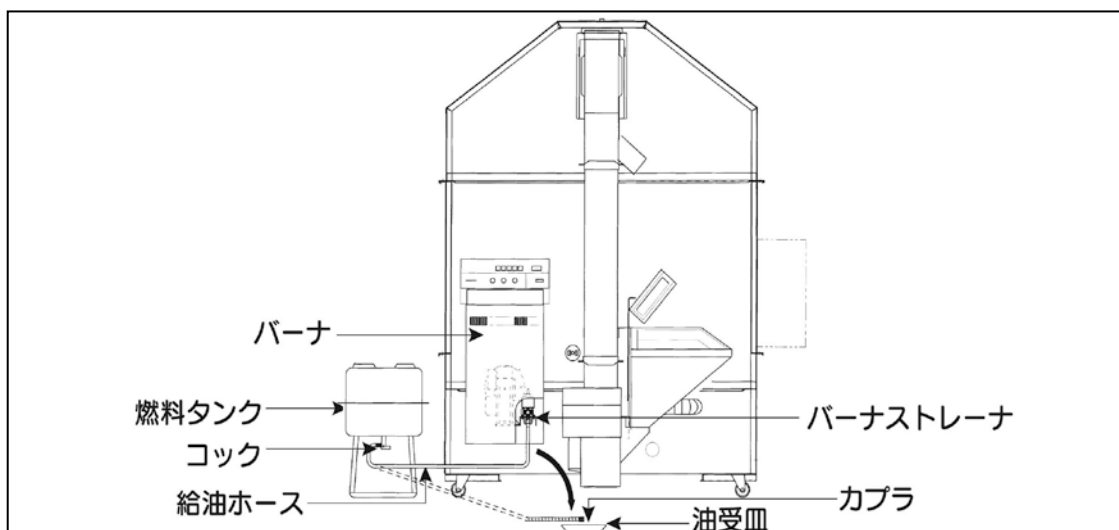


- ④ 燃料タンクの給油口にふたをして閉めてください。

注 記

- 給油するときは、水やごみが入らないようにしてください。
- 古い灯油は、使用しないでください。
- 乾燥運転中に燃料を補給するときは、本機をいったん停止しなければなりません。できるだけ乾燥運転前に満タンにしておいてください。

4.4 燃料配管のエア抜き



警告

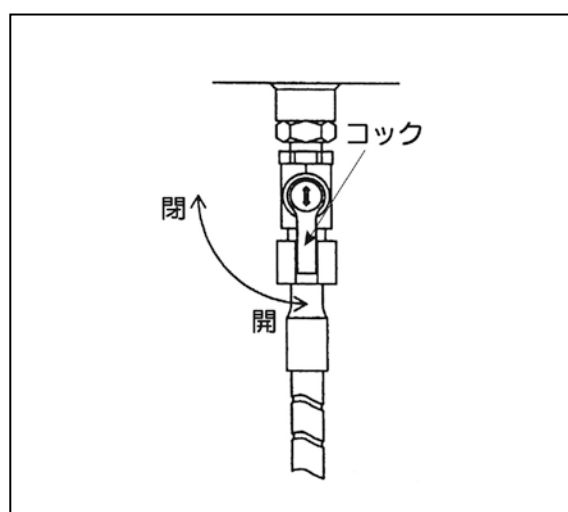
- エア抜きの際にこぼれた灯油は、必ずきれいに拭き取ってください。火災の原因となる恐れがあります。

注記

- エア抜きの際に、バーナストレーナに水やごみがたまっていたら、ストレーナを分解して掃除してください(「点検・調節・整備」の項(83ページ)を参照してください)。

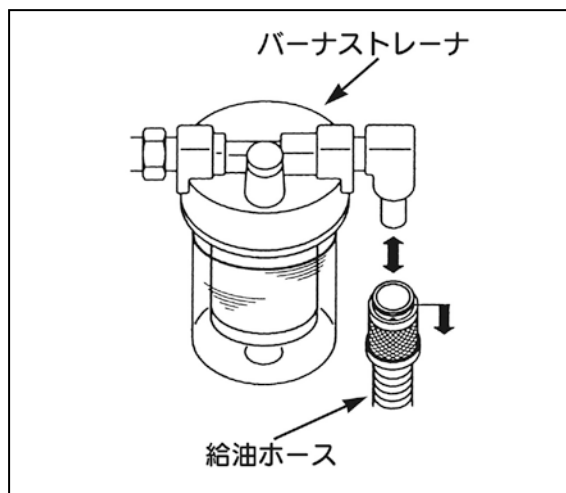
- ① 燃料タンクのコックを「閉」の位置に合わせてください。

- 給油ホースのカプラをバーナストレーナからはずして、燃料タンクの位置より下に下げてください。このとき、給油ホースをまっすぐに延ばして置いてください。
- 給油ホースの先端には、適当な油受皿を置いてください。



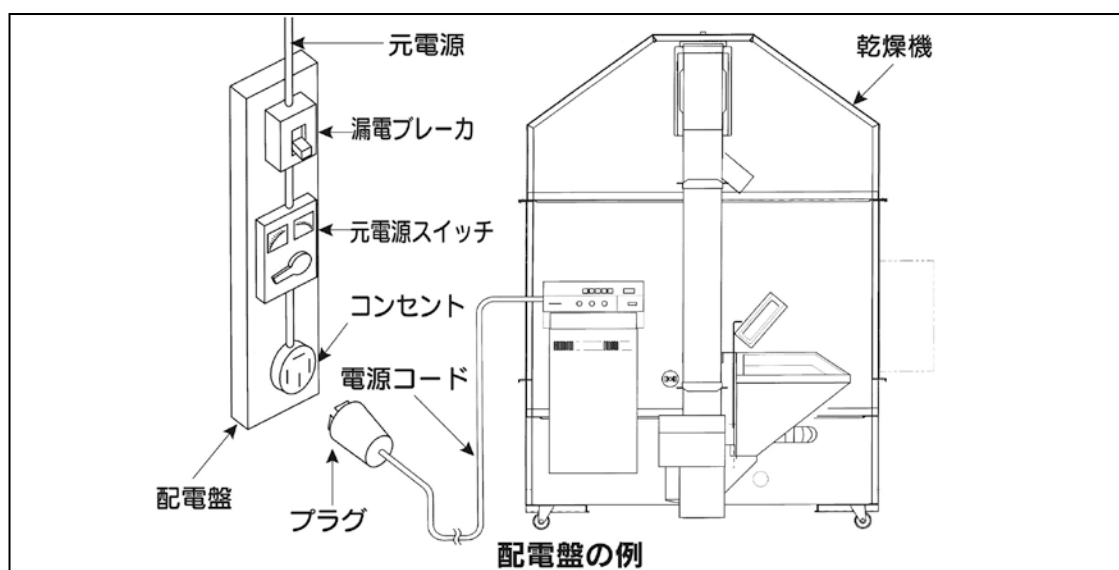
- ② 燃料タンクのコックを「開」の位置に合わせ、給油ホースの先端から出てくる灯油の中にあわが混じっているかどうかを確認してください。

- このとき、給油ホースの先端から出てくる灯油の中にあわが混じらなくなったら、燃料タンクのコックを「閉」の位置に合わせて、灯油を止めてください。



- ③ 給油ホースのカプラをバーナストレーナに取り付けてください。
- ④ 燃料タンクのコックを「開」の位置に合わせてください。

4.5 電源の確認



- ① 元電源および電源コードにアースが接続されていることを確認してください。

⚠ 危険

- 元電源および電源コードは必ずアースを接続したものを使用してください。アースを接続しないと、漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。

② 元電源は、漏電ブレーカを通していることを確認してください。

警告

- 元電源は、漏電ブレーカの付いた専用電源に接続してください。漏電による人身事故または火災の原因となる恐れがあります。

③ 電源コードは、所要動力（負荷）に十分耐えられる容量で、かつ適正な長さであることを確認してください。

使用電源	電源・配線・コンセントプラグの定格	電源コード
100V	15A以上	2mm ² 以上で10m以内
200V	10A以上	1.25mm ² 以上で10m以内

注 記

- 契約電流が少ない場合や、コードが細い場合などは、始動困難などのトラブル原因になりますので、上記の定格などは必ず守ってください。

警告

- コード類は、電気用品安全法の適合マーク（PSE）製品を使用してください。人身事故または火災の原因となる恐れがあります。

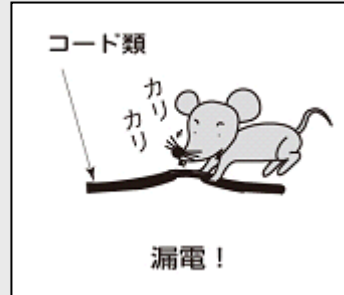
警告

- 配線は、電気工事会社に相談の上、内線規定に従って実施してください。
不適当な配線をおこなうと人身事故または火災の原因となる恐れがあります。

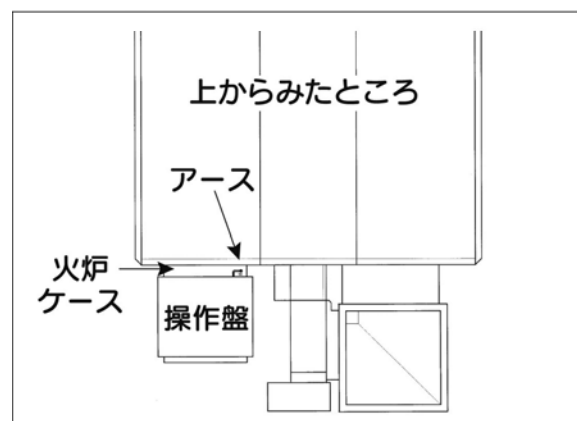
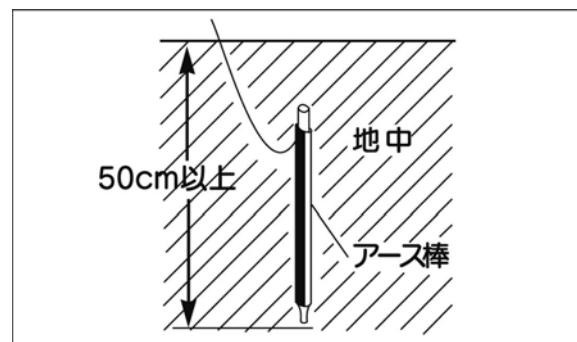
- ④ 作業時に電源コードが踏まれないような、つまずきのないような適当な措置がとってあることを確認してください。
- ⑤ コード類に損傷がないことを確認してください。

警告

- 損傷したコード類は、使用しないでください。そのまま使用すると、漏電による人身事故または火災の原因となる恐れがあります。



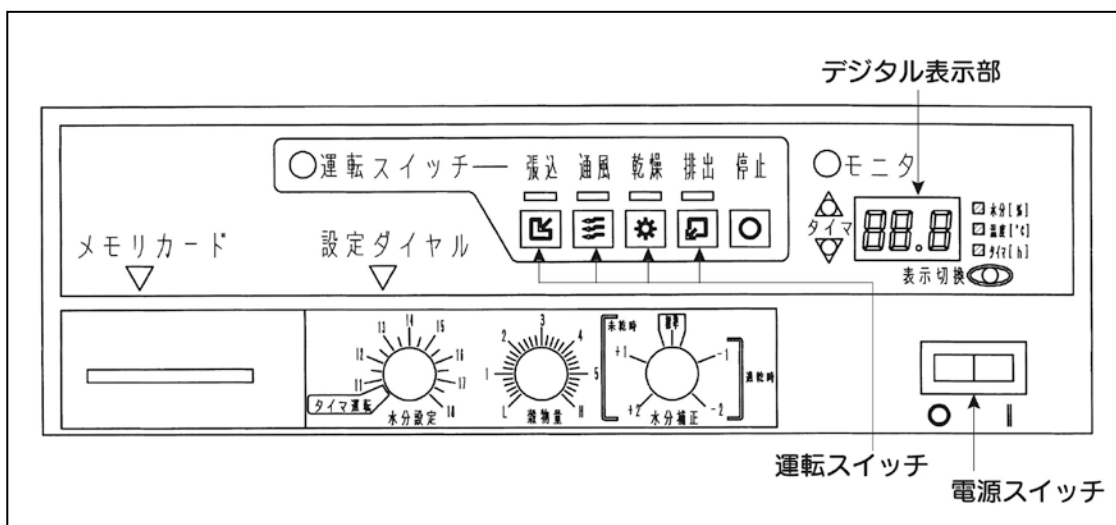
- ⑥ 本体および操作盤からアースが接続してある（アース棒が地中に50cm以上差し込まれている）ことを確認してください。



危険

- 本体および操作盤から必ずアースを接続してください。アースを接続しないと、漏電時、死亡事故または火災の原因となる恐れがあります。

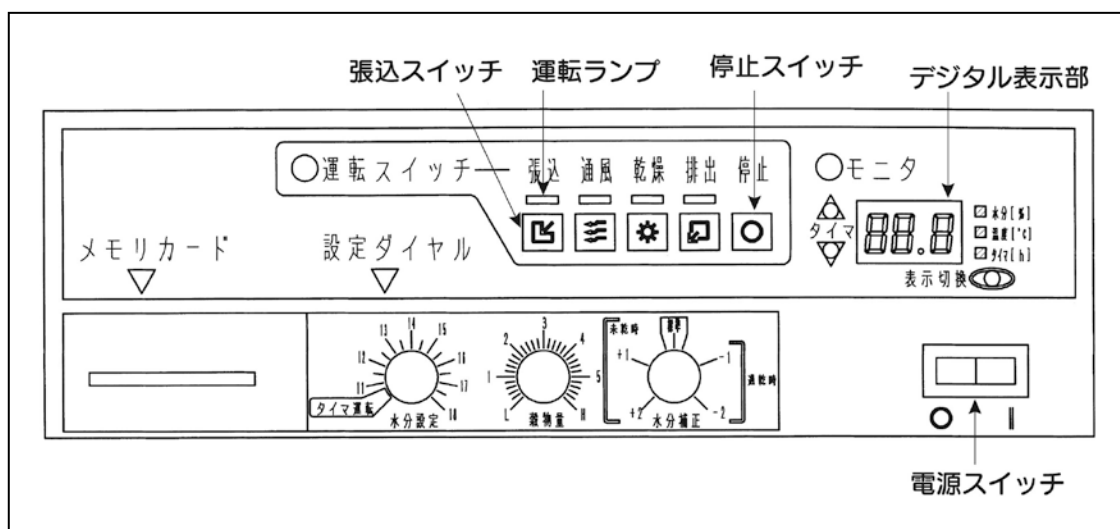
- ⑦ コンセントにプラグを差し込み、電源を投入してください。



- ⑧ 操作盤の電源スイッチを「入」にしてください。
- このとき操作盤のデジタル表示部に **9.** を 2 秒間表示することを確認してください。
- ⑨ 運転スイッチの「張込」を押すと、本機が始動することを確認してください。
- ⑩ 運転スイッチの「停止」を押して、本機が停止することを確認してください。

第 5 章 運 転 操 作

5.1 張込運転



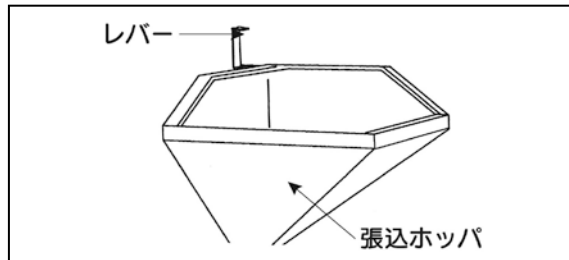
注 意

- 緊急時に停止させるときは、電源スイッチを「切」にしてください。他の方法で停止させると、大きな損害を生じることがあります。

5.1.1 張込運転の操作手順

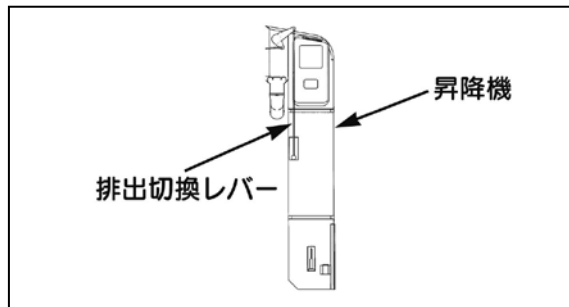
下記の手順で張込運転をおこないます。

- ① 張込ホップのレバーを上げてください。排出切換レバーは「循環」側にしてください。



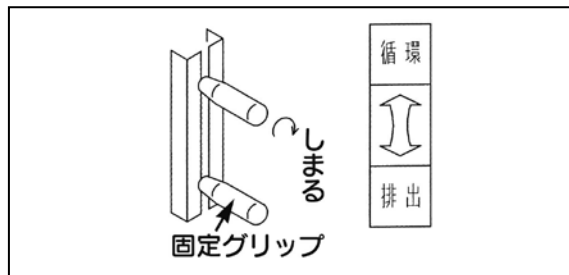
- ② 電源スイッチを「入」にしてください。

- ③ 張込スイッチを押してください。
- 「張込」の運転ランプが点灯します。
 - 本機が始動します。



- ④ 張込ホップから、穀物を張り込んでください。

- デジタル表示部に **FUL** を点滅表示して、本機が停止したときは、満量です。



次の操作をおこなってください。

- ① 停止スイッチを押してください。
- ② 張込スイッチを再度押してください。
- 本機が再起動すると、ホップ内の残りの穀物がすべて張り込まれます。
- ⑤ 停止するときには、停止スイッチを押してください。
- ⑥ 張込運転が終了したら張込ホップのレバーを下げてください。

5.1.2 張込運転の要領

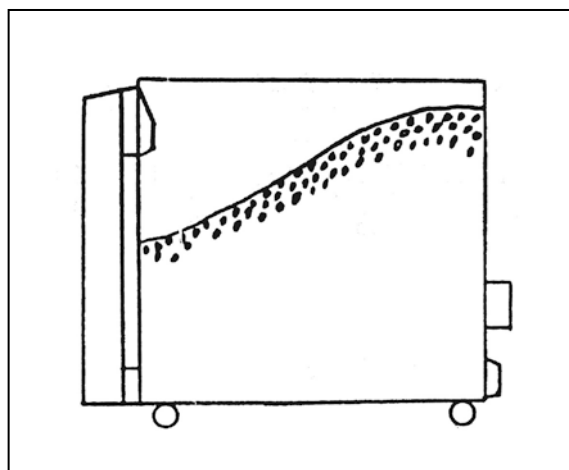
- (1) 満量張込み時の標準コンバイン袋数は、27袋です。
- (2) 粃の張込量は、水分や夾雑物（枝梗（しこう）付着粒、わらくず、ごみ、草など）の混入により多少変わります。
- (3) 夾雑物は、本機内で穀物の循環に悪影響を及ぼしますので、張込み前にできるだけ取り除いてください。
- (4) デジタル表示部に「E46」を点滅表示して、本機が停止したときは、張込み過ぎによる過負荷によるものです。次の操作をおこなってください。
 - ① 電源スイッチを「切」にしてください。
 - ② 昇降機下部の穀物を取り除いてください。
 - 「残留穀物・塵の掃除の方法」の項（86ページ）を参照してください。
 - ③ 排出運転（57ページ）などによって穀物を2～3袋排出してください。

注 記

- 張込量が多過ぎると、機械が詰まり、故障の原因となります。

● 均分について

- 張り込まれた穀物は、後ろの方が高く前の方が低い斜めの山になります。この山形は穀物の水分・性状により若干変わります。張込み時に平らにならして、追加張込みをすることはさけてください。（昇降機が詰まります。）

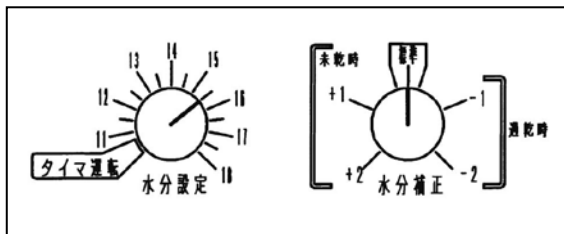


5.1.3 水分測定（手動操作）の要領

- 張込運転中に水分の測定が手動でできます。
ただし、デジタル表示部に「FUL」を表示しているときはできません。

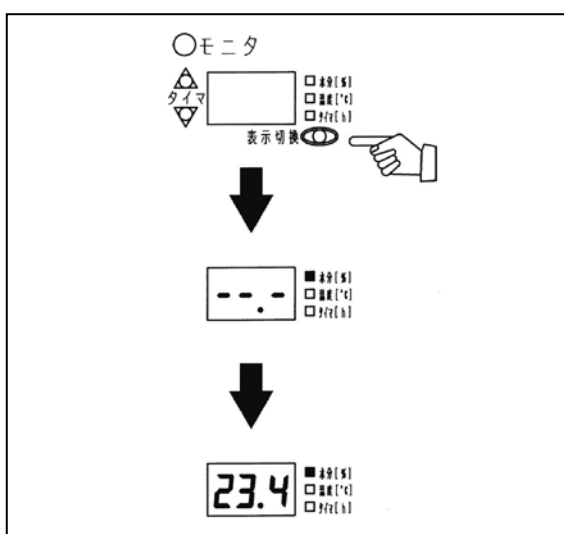
① 水分設定ダイヤルを「タイマ運転」以外のところに設定してください。

② 水分設定ダイヤルを標準のレンジに合わせてください。（49 ページ参照）



③ 表示切換（水分測定）スイッチを押してください。

- デジタル表示部に「--.-」を表示します。
- 約1分40秒後に水分表示がでます。



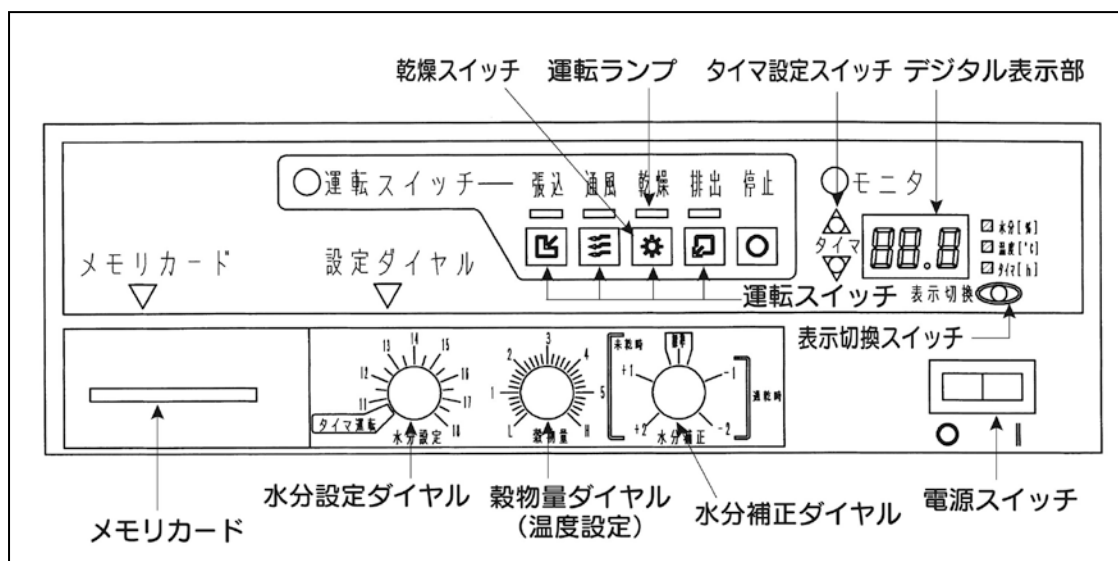
注 記

- 張込み中の水分測定は、張込ホッパ内に粉があるときに表示切換スイッチを押してください。
- 粉が切れているときは、水分値が低かったり、「.L」を表示したりします。

⚠ 注意

- 運転中は、水分センサをはずさないでください。運転中にはずすと、回転物に接触して、けがをすることがあります。

5.2 乾燥運転



注意

- 緊急時に停止させるときは、電源スイッチを「切」にしてください。他の方法で停止させると、大きな損害を生じることがあります。

警告

- 運転中は、無人運転をしないでください。やむを得ず本機のそばを離れるときは、2～3時間に一度の見回りをおこない、本機が正常に動いていることを確認してください。
故障に気づかないで、そのまま運転し続けると、火災などの重大な事故を起こす恐れがあります。

5.2.1 乾燥運転の操作手順

下記の手順で乾燥運転をおこないます。

- ① 燃料タンクのコックを開いてください。
- ② 電源スイッチを「入」にしてください。

- ③ 水分補正ダイヤルを標準に合わせてください。
 - 「水分補正ダイヤルの設定」の項（49 ページ）を参照してください。
- ④ 穀物量ダイヤルを、本体の穀物容量表示マークに従って合わせてください。
 - 「穀物量（温度設定）ダイヤルの設定」の項（51 ページ）を参照してください。
- ⑤ 水分設定ダイヤルを目標とする仕上水分値に合わせてください。
 - 「水分設定ダイヤルの設定」の項（53 ページ）を参照してください。
- ⑥ 乾燥スイッチを押してください。
 - 「乾燥」の運転ランプが点灯します。
 - 本機が始動します。
- 穀物量ダイヤルが2（張込量約 400Kg）より少ない場合は、間欠循環で乾燥します。（穀物量ダイヤル2以上は連続循環）
下スクリュウが2分間の運転と2分間の停止を繰り返しおこない、粉の損傷を防止します。

警告

- 運転中または燃焼中は、火炉カバーを開けないでください。運転中または燃焼中に開けると、火傷や思わぬ事故につながる恐れがあります。

- デジタル表示部に **E75** を点滅表示して、本機が停止するときは、次の処置をおこなってください。
 - 「異常処置の表」の項（69 ページ）を参照してください。
 - ① 電源スイッチを「切」にしてください。
 - ② 張込ホッパ、ホッパふたおよび火炉カバーが開いてないことを確認してください。
 - 「安全の確認」の項（31 ページ）を参照してください。
- デジタル表示部に **E16** を点滅表示して、本機が停止するときは、次の処置をおこなってください。
 - 「異常処置の表」の項（69・70 ページ）を参照してください。
 - ① 電源スイッチを「切」にしてください。
 - ② 燃料配管などに、エア、水、ごみなどが入ってないことを確認してください。
 - 「燃料配管のエア抜き」の項（36 ページ）および「バーナストレーナの洗浄の方法」の項（89 ページ）を参照してください。

これらの確認整備後、乾燥運転の手順に従って再度運転をおこなってください。

警告

- サービスマン以外は、バーナ各部の分解・調節・整備をしないでください。火災の原因となる恐れがあります。

- 途中で燃料が切れた場合は、デジタル表示部に **E16** を点滅表示して、本機は自動的に停止します。
次の処置をおこなってください。
 - ① 停止スイッチを押して下さい。
 - ② 給油してください。
 - 「給油」の項（34 ページ）を参照してください。
 - ③ 燃料配管のエア抜きをしてください。
 - 「燃料配管のエア抜き」の項（36 ページ）を参照してください。

警告

- 運転中に給油の必要が生じた場合は、本機が停止したことを確認してから燃料を補給してください。運転中に補給すると、火災の原因となる恐れがあります。

- ⑦ 停止するときは、停止スイッチを押してください。
- 水分設定をした場合は、穀物の水分が設定された仕上水分値以下になると、自動的に停止します。
 - デジタル表示部は **水分値** と **End** を交互に表示します。
- タイマ設定をした場合は、運転時間が設定された時間に到達すると、自動的に停止します。

注 記

- 自動停止後も、必ず停止スイッチを押してください。

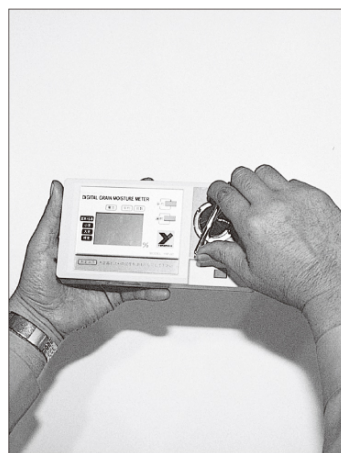
- ⑧ 燃料タンクのコックを締めてください。

警告

- 作業終了後、燃料タンクのコックを締めてください。何かのひょうしに油が漏れて、火災の原因となる恐れがあります。

注 記

- 乾燥終了後は、必ず穀物の水分を基準的な手持水分計で測定して確認してください。
- 手持水分計は、必ず検定後1年以内の基準的なものを使用してください。
- 手持水分計で穀物を測定するときは、乾燥後の穀物（サンプル）を20分間以上放冷し、良質の整粒だけを測定してください。また、その水分値は、5回以上測定した値の平均値としてください。



- 本機表示の停止水分値（目標とする仕上水分値）より手持水分計表示の実水分値が高くなっているときは、水分補正ダイヤルまたは水分設定ダイヤルで適正に補正をした後、乾燥運転の操作手順に従って、再乾燥運転をおこなってください。
 - ダイヤルの補正の要領は、「水分補正ダイヤルの設定」の項（49ページ）および「水分設定ダイヤルの設定」の項（53ページ）を参照してください。

5.2.2 水分補正ダイヤルの設定

注意

- 水分補正ダイヤルを間違えてセットすると、水分補正値を誤り、大きな損害を生じることがあります。
-
- この水分補正ダイヤルは、水分表示の補正として使用できます。
 - 穀物の品種、地域および作柄などにより、乾燥後の穀物の実水分値と本機表示の停止水分値（目標とする仕上水分値）との間に差が出る場合があります。
 - 毎年の使い初めに、乾燥後の穀物の水分を基準的な手持水分計（検定後 1 年以内のもの）で測定してから、必要に応じて補正をしてください。

● 粉の乾燥

- 標準は、**標準** にセットします。
- 本乾燥機表示の停止水分値と手持水分計表示の実水分値との間に差があるときは、次のようにセットをしてください。

本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が1.0%以上低くなっているとき。

本乾燥機表示 **手持水分計表示**

(例)

水分補正ダイヤルをレンジ にセットしてください

本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が2.0%以上低くなっているとき。

本乾燥機表示 **手持水分計表示**

(例)

水分補正ダイヤルをレンジ にセットしてください

本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が1.0%以上高くなっているとき。

本乾燥機表示 **手持水分計表示**

(例)

水分補正ダイヤルをレンジ にセットしてください

本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が2.0%以上高くなっているとき。

本乾燥機表示 **手持水分計表示**

(例)

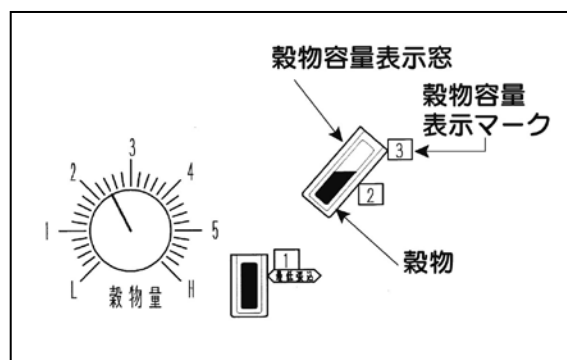
水分補正ダイヤルをレンジ にセットしてください

5.2.3 穀物量（温度設定）ダイヤルの設定

注意

- 穀物量（温度設定）ダイヤルを、張込量が少ないにもかかわらず多い方にセットすると、乾燥速度が異常に速くなり、穀物に大きな損害を生じることがあります。

- 穀物量ダイヤルは、張込量に応じて合わせます。
 セットの仕方は、張り込んだ量を示している本機本体の穀物容量表示マークの数字と同じ目盛に合わせてください。
 そのときの外気温と張込量とから適正な熱風温度が自動的に設定されます。



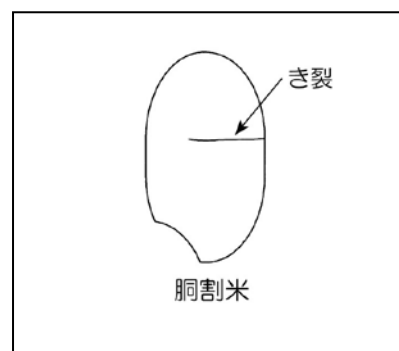
- 張込量が穀物容量表示マークと別の穀物容量表示マークとの中間位置にきているときは、案分して穀物量ダイヤルも中間位置にセットしてください。

- 次の場合は、穀物量ダイヤルを 1～2 ランク（大きい目盛を 1～2 つ分）少なくセットしてください。

(例) 3 まで張り込んだら
 → 2 ~ 1 に
 セットしてください。

(1) 立毛中に胴割れがみられる場合

- 胴割れとは、右図のように玄米の胚乳部にき裂が生じている粒のことで。



(2) 乾燥前に脱び・半脱び粉がみられる場合

- 脱び粒とは、粉がらが完全に取れて、玄米になっている粒のことで。
- 半脱び粒とは、粉がらの一部が取れて、玄米が部分的に露出している粒のことで。

(3) 胴割れしやすい品種の場合（酒米・もち米など）

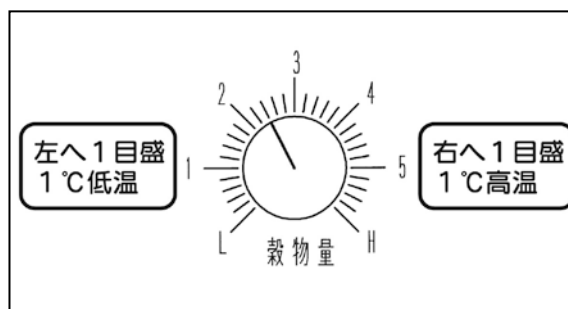
(4) 空気が乾いて湿度 60%以下（本機の周辺）の場合

このようにセットすると、熱風温度が 6~12℃低くなり、ゆっくり乾燥して、胴割れの被害を少なくします。

● 熱風温度調節

● デジタル表示部を見て熱風温度をチェックし、熱風温度を調節したいときは、次のようにおこないます。

- 高温にしたいときは穀物量ダイヤルを右へ、低温にしたいときは穀物量ダイヤルを左へ回してください。
- 穀物量ダイヤルの小目盛は約 1℃刻みになっています。



- 最大上昇温度は外気温度プラス 35~40℃です。ただし、63℃以上の設定はできません。
- 次の熱風温度の参考表は、全国の標準を示すものです。乾き具合によって、この参考表の数値より±5℃程度の範囲で穀物量ダイヤルを調整して乾燥してください。

熱風温度（外気温度に対する）の参考表

穀物目盛	1	2	3	4	5
外気温 張込量	約200kg	約400kg	約570kg	約730kg	約900kg
10℃	28℃	34℃	40℃	46℃	52℃
15℃	31℃	37℃	43℃	49℃	55℃
20℃	34℃	40℃	46℃	52℃	58℃
25℃	37℃	43℃	49℃	55℃	61℃
30℃	40℃	46℃	52℃	58℃	63℃

(注) 熱風温度は、外気温および乾燥速度により自動的に変化します。また、この表での外気温とは、操作盤に接続された気温サーミスタでとらえられた温度をいいます。

5.2.4 水分設定ダイヤルの設定

- 水分設定ダイヤルは、目標とする仕上水分値に合わせます。
穀物の水分が設定された仕上水分値以下になると、本機は自動的に停止します。(乾燥運転の場合のみ)

注 記

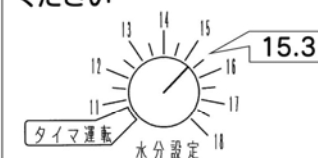
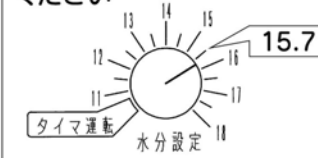
- 水分設定ダイヤルを「タイマ運転」の位置にセットしたときは、タイマが切れるか、停止スイッチを押すまで運転し続けますので、十分注意してください。



- 一般的には、水分設定ダイヤルを次のようにセットしてください。

- 14.6 ~ 15.0%に仕上げるとき → 15.0にセット
- 15.1 ~ 15.5%に仕上げるとき → 15.5にセット
- 15.6 ~ 16.0%に仕上げるとき → 16.0にセット

- 穀物の品種、地域および作柄などにより、乾燥後の穀物の実水分値と本乾燥機表示の停止水分値（目標とする仕上水分値）との間に差が出る場合があります。
 - 初回の乾燥のときは、水分設定ダイヤルを1%高めにセットし、仕上がったときの穀物の実水分値を基準的な手持水分計（検定後1年以内のもの）で測定してから、必要に応じて2回目以降のセット（補正）をしてください。
 - 本乾燥機表示の停止水分値と手持水分計表示の実水分値との間に差があるときは、次のように補正をしてください。

<p>本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が0.4%高くなっているとき。</p> <table border="0" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">本乾燥機表示</td> <td style="text-align: center;">手持水分計表示</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(例) 15.5</td> <td style="text-align: center;">(例) 15.9</td> </tr> </table>	本乾燥機表示	手持水分計表示	(例) 15.5	(例) 15.9	➔	<p>水分設定ダイヤルを誤差の半分程度低くセットしてください</p> 
本乾燥機表示	手持水分計表示					
(例) 15.5	(例) 15.9					
<p>本乾燥機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値が0.4%低くなっているとき。</p> <table border="0" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">本乾燥機表示</td> <td style="text-align: center;">手持水分計表示</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(例) 15.5</td> <td style="text-align: center;">(例) 15.1</td> </tr> </table>	本乾燥機表示	手持水分計表示	(例) 15.5	(例) 15.1	➔	<p>水分設定ダイヤルを誤差の半分程度高くセットしてください</p> 
本乾燥機表示	手持水分計表示					
(例) 15.5	(例) 15.1					

- 粳すりまでの外気湿度によって、水分のもどり、進みを繰り返すことがあります。

外気湿度	粳の水分変化
76%以上（雨降り、夜間）	0 ~ 0.5%もどりやすい
75%以下（晴れた日中）	0 ~ 0.5%進みやすい

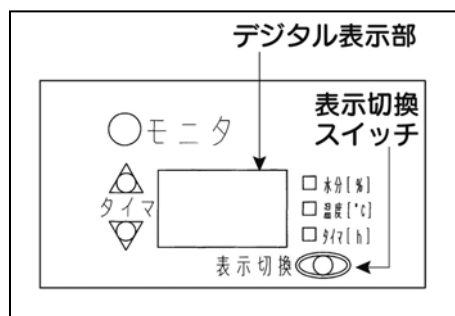
5.2.5 自動水分制御

(1) 自動水分測定

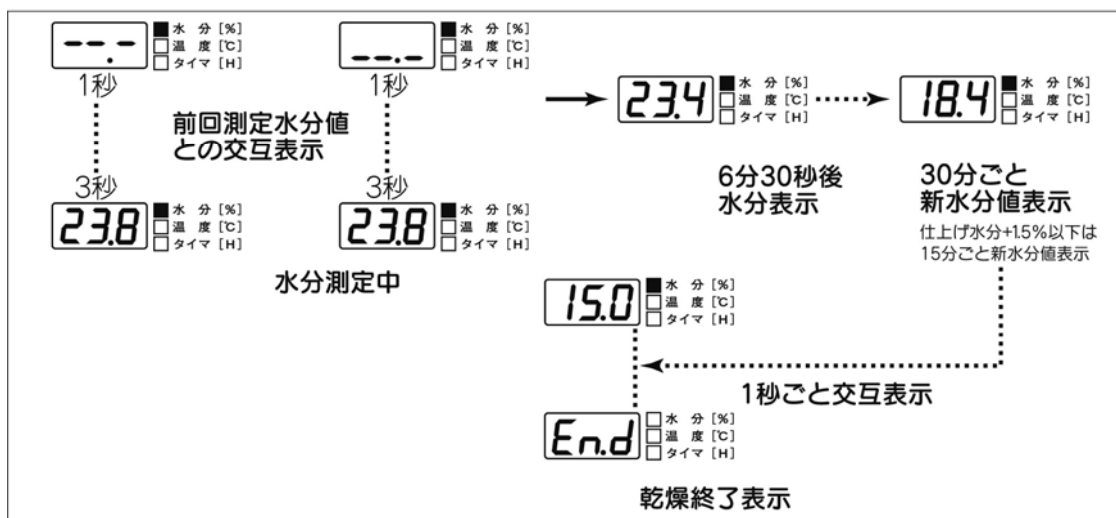
- 乾燥運転中は、水分設定ダイヤルが仕上水分値にセットされていれば、自動的に水分測定をおこないます。
- 自動水分測定は、30分間隔でおこなわれます。
- 穀物の水分が仕上水分値の+1.5%以下になると、自動水分測定は15分間隔でおこなわれます。
- 穀物の水分が仕上水分値になる（設定水分合格になる）と、本機は自動的に停止します。

(2) 自動水分表示

- 乾燥運転中は、水分設定ダイヤルが仕上水分値にセットされていれば、デジタル表示部に自動的に水分表示をします。
- 乾燥運転開始後、すぐデジタル表示部に「--.-」を表示し、6分30秒後に水分値を表示します。
- 乾燥運転中は、30分ごとに新しい水分値を表示します。
- デジタル表示部は、表示切換をしない限り、乾燥運転終了まで水分表示を続けます。
- 乾燥運転中に表示を切り換えるときは、表示切換スイッチを押してください。熱風温度が表示されます。
- 設定水分合格による自動停止のときは、デジタル表示部に「水分値」と「End」を交互に表示します。



【自動水分制御によるデジタル表示の例】



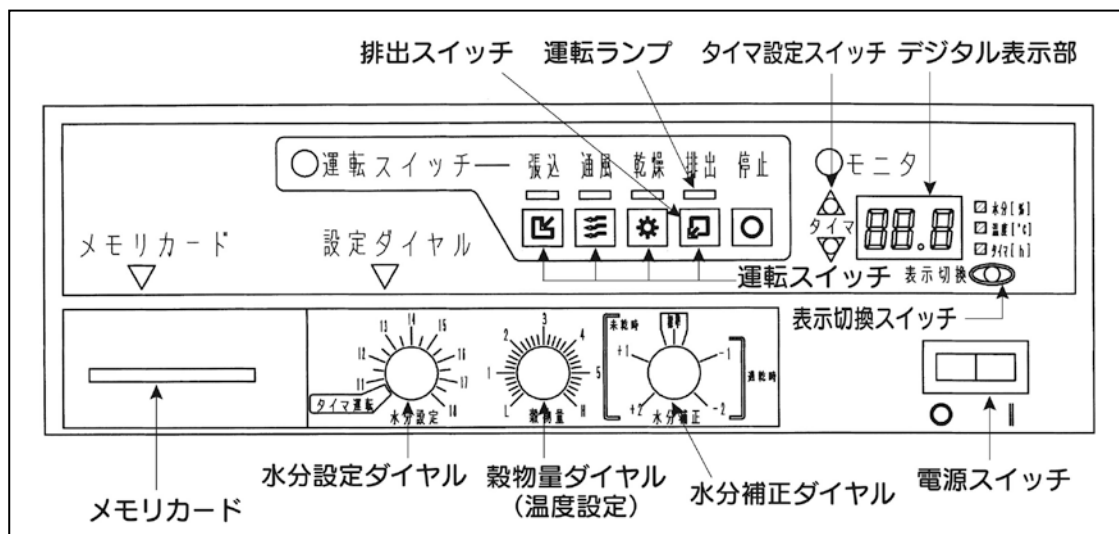
注 記

- 水分設定ダイヤルを「タイマ運転」にして乾燥運転をしたときは、水分の測定、水分による停止および水分の表示をしません。
- 乾燥運転中は、手動操作による水分測定はできません。

(3) 過速乾燥防止制御

- 乾燥運転中は、急激な乾燥を防止するため、標準的な乾燥速度以上になると、自動的に水分測定間隔に合わせて少しずつ熱風温度を下げます。また、乾きが落ちた場合は、少しずつ最初に設定された温度まで上げていきます。
- この制御のため、熱風温度が変化することがありますが、異常ではありません。ただし、水分表示が25%を超えるときは、過速乾燥防止制御はしません。

5.3 排出運転



注意

- 緊急時に停止させるときは、電源スイッチを「切」にしてください。他の方法で停止させると、大きな損害を生じることがあります。

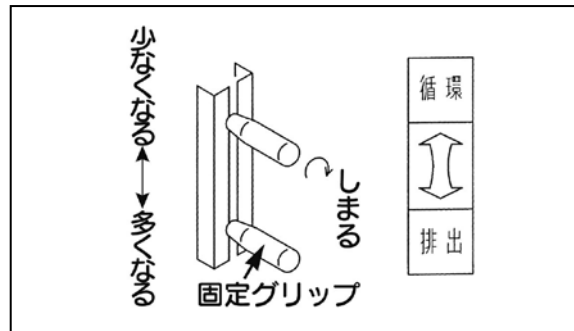
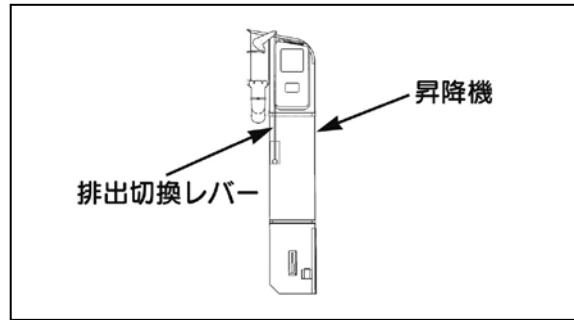
5.3.1 排出運転の操作手順

下記の手順で排出運転をおこないます。

- ① 電源スイッチを「入」にしてください。
- ② 排出スイッチを押してください。
 - 「排出」の運転ランプが点灯します。
 - 本機が始動します。
 - デジタル表示部に **3.0** と表示し自動的にタイマ運転になります。

③ 排出切換レバーの固定グリップをゆるめレバーを引き下げて、排出の状態にしてください。

④ 排出が終了したら、停止スイッチを押してください。排出切換レバーを元の位置に戻してください。

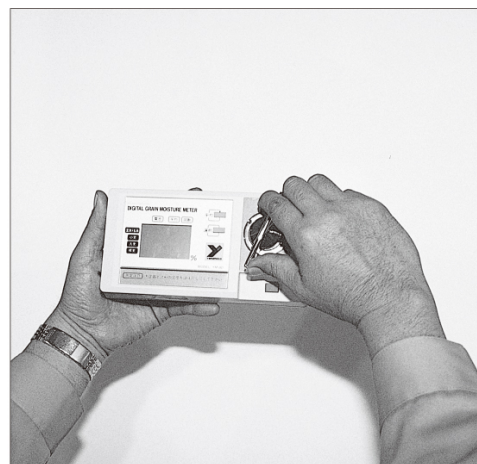


注 記

- 排出運転で停止スイッチを押した後は、約 15 秒間は排出運転しかできません。その他の運転は 15 秒間たってからおこなってください。
- 粳すり機に直接排出するときは、排出切換レバーを途中で固定して粳すり機的能力に合わせて、排出量を調節してください。
粳すり機的能力以上に排出すると昇降機が詰まるおそれがあります。

5.3.2 排出運転の要領

- (1) 排出する前に、サンプルの粳を玄米にして、基準的な手持水分計（検定1年以内のもの）で水分を必ず確認してください。
- 乾燥直後の粳は、粳がらに水分が移行していないため、本機表示の停止水分値より手持水分計表示の実水分値の方が高めになることがあります。
 - 手持水分計による測定の要領は、48 ページの「注記」を参照してください。



- (2) 粳すり機に直接排出するときは、乾燥後 24 時間以上放冷した後、粳の水分をもう一度確認してからおこなってください。
- 粳すりまでの放置時間の長さ、または未熟粒（青米）の混入割合により、乾燥終了時の水分と粳すり前の水分に差が出る場合があります。
 - 排出量を調節するときは、排出切換レバーを途中で固定して粳すり機的能力に合わせてください。
- (3) 昇降機やスクリーコンベヤの詰まりで過負荷になり、デジタル表示部に **E46** が点滅表示し本機が停止したときは、いったん電源スイッチを「切」にして昇降機下部の穀物を取り除いてください。
- (4) 排出パイプからほこりが激しく出る場合は、通風スイッチを押して排出・通風運転をしてください。ほこりが送風機から吸引・排出されて出にくくなります。

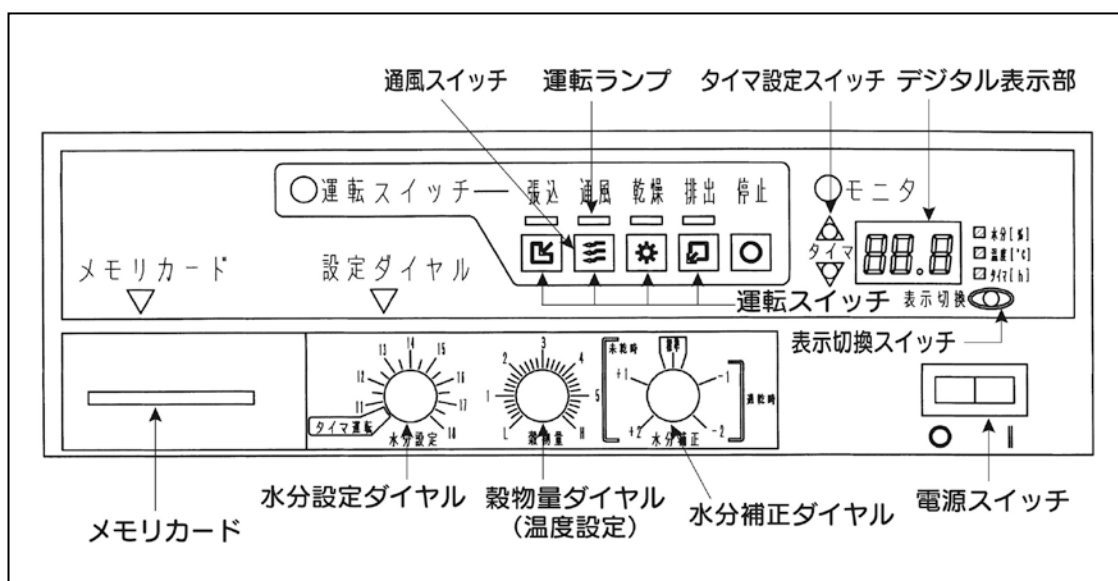
注意

- 排出運転中は、室内を換気し、マスクを着用してください。多量の粉塵が飛散するので、健康を害することがあります。

注 記

- 排出運転中は、手動操作による水分測定はできません。

5.4 通風運転



注意

- 緊急時に停止させるときは、電源スイッチを「切」にしてください。他の方法で停止させると、大きな損害を生じることがあります。

5.4.1 通風運転の操作手順

下記の手順で通風運転をおこないます。

- ① 電源スイッチを「入」にしてください。
- ② 通風スイッチを押してください。
 - 「通風」の運転ランプが点灯します。
 - 本機が始動します。
- ③ 停止するときには、停止スイッチを押してください。

5.4.2 通風運転の要領

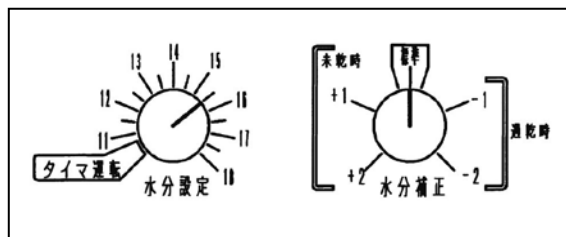
- (1) 通風とは穀物を循環させながら送風をおこなうことです。穀物の水分が高い場合には、本機内でのむれや循環滞留を防ぐために、通風運転をします。
 - 午前中刈り取った高水分の穀物を張り込み、その後、午後刈り取った穀物を追加して張り込む場合、午前中の張り込み後から午後再度張り込むまでの間、この運転をします。
 - 張り込みを一時中断する場合、その間、この運転をします。
 - 万一故障のため乾燥運転ができない場合、故障がなおるまでの間、この運転をします。
 - また本機では、通風スイッチを押して、排出切換レバーを引き下げられると、送風機をまわしながら排出することができます。
- (2) 張り込み量が最低張り込み量以下のときは、高水分のものを長時間循環すると穀物がいたみますので、1 時間程度通風したら、いったん停止して「張り込み」で運転してください。「張り込み」にすると穀物は循環することなく通風のみおこなわれます。
 - 穀物量ダイヤルが2（張り込み量約 400Kg）より少ない場合は、間欠循環で通風します（穀物量ダイヤル2以上は連続循環）。下スクリーンが2分間の運転と2分間の停止を繰り返しおこない、粉の損傷を防止します。

5.4.3 水分測定（手動操作）の要領

- 通風運転中に水分の測定が手動でできます。

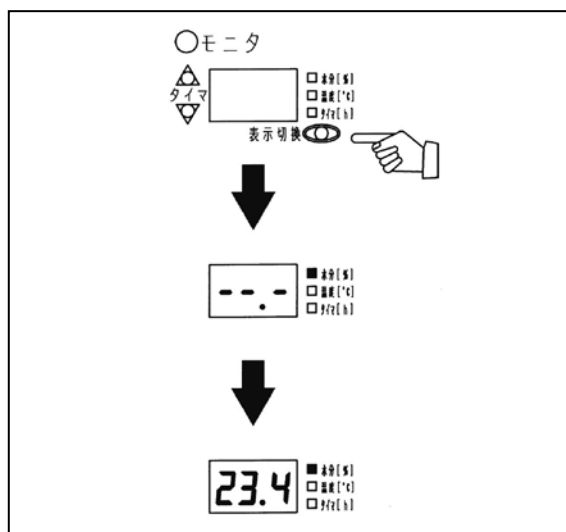
① 水分設定ダイヤルを、「タイマ運転」以外のところに設定してください。

② 水分補正ダイヤルを標準に合わせてください。



③ 表示切換（水分測定）スイッチを押してください。

- デジタル表示部に「--.-」を表示します。
- 約1分40秒後に水分表示します。

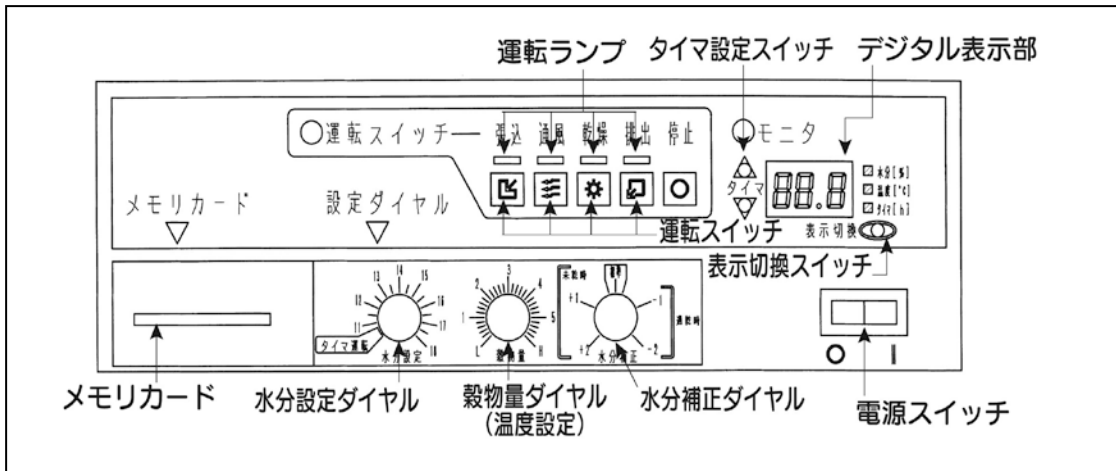


- 間欠循環（「通風運転の要領」の項参照）で運転中に、下スクリューが停止している場合も水分の測定ができます。

⚠ 注意

- 運転中は、水分センサをはずさないでください。運転中に水分センサをはずすと、回転物に接触して、けがをすることがあります。

5.5 タイマ運転



注意

- 緊急時に停止させるときは、電源スイッチを「切」にしてください。他の方法で停止させると、大きな障害を生じることがあります。

警告

- 運転中は、無人運転をしないでください。やむを得ず本機のそばを離れるときは、2～3時間に一度の見回りをおこない、本機が正常に動いていることを確認してください。
故障に気づかないで、そのまま運転し続けると、火災などの重大な事故を起こす恐れがあります。

5.5.1 タイマ運転の操作手順

下記の手順でタイマ運転をおこないます。

- ① 電源スイッチを「入」にしてください。
- ② 水分設定ダイヤルを「タイマ運転」の位置に合わせてください。
- ③ 乾燥運転の場合は、張込量によって穀物量ダイヤルをセットしてください。

- ④ タイマ設定スイッチを押し、希望する時間にセットしてください。
 - ▲を押すと設定時間は増加し、▼を押すと減少します。運転中でも設定時間の変更が可能です。
- ⑤ 希望するいずれかの運転スイッチを押してください。
 - 押されたスイッチの運転ランプが点灯します。
 - 本機が始動します。
- ⑥ 運転途中で停止するときは、停止スイッチを押してください。

注 記

- タイマの設定時間は30分単位で最大24時間です。
- 停止スイッチを押したり、エラーで停止したり、自動運転（水分による停止）に変えた場合は、その時点よりタイマは減少しません。再びタイマ運転にすればタイマは減少します。
- 自動運転（水分による停止でタイマがセットされていない状態）からタイマ運転に変えた場合は自動的にタイマが1時間にセットされます。また、タイマ運転にセットした状態で電源を投入してもタイマが1時間にセットされます。
- 排出運転のときは、水分設定ダイヤルをどこにセットしても自動的に3時間のタイマがセットされます。

5.5.2 乾燥時間の決め方

- 乾燥時間は生糶の水分によって大きく変わりますので、生糶の水分をできるだけ正確に知らなければなりません。乾燥の前に数ヶ所からサンプルを取り、水分を5回以上測定し平均値を求めてください。これを次の表にあてはめてタイマを設定してください。

生糶水分→仕上水分	25%→15%	23%→15%	21%→15%	19%→15%	17%→15%
乾燥時間	10時間	8時間	6時間	4時間	2時間

注 記

- この表の乾燥時間は、過乾燥防止のため、1 時間に 1% 乾燥するとして短めになっています。
- タイマがゼロになり停止したのちは、タイマをセットし「通風」運転をしてサンプルを取り出して水分を確認してください。仕上がっていない場合は、もう一度乾燥時間をセットして再度乾燥してください。乾燥途中でサンプルを取り出し水分を測定して、乾燥運転中にタイマを再セットすればより仕上水分に近づきます。

第 6 章

故 障 診 断




- 本機運転中に何らかの異常が発見されたときは、この章を参照し点検をおこなってください。それでも異常が取り除けない場合は、購入先へ連絡してください。
- 異常が発見された場合
 - ① 停止スイッチを押して、本機を停止させてください。
 - ② モニタのデジタル表示部に異常表示が点滅したときは、この章の「モニタの異常表示」の項に従ってください。
 - ③ その他の異常が発見されたときは、この章の「異常現象別処置要領」の項に従ってください。
 - ④ 種々の処置後、本機が回復したら、再度運転操作手順に従って運転をおこなってください。

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をおこなうときは、必ず電源スイッチを「切」にし、元電源側のコンセントからプラグを抜いてください。感電による死亡事故につながる恐れがあります。また、誰かが誤ってスイッチを押してしまう恐れがあり、大変危険です。

6.1 モニタの異常表示

- モニタのデジタル表示部に下記のような異常表示が点滅したときは、いったん停止スイッチを押して、本機を停止させた後、購入先へ連絡してください。

		
<input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	<input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	<input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
CdSショート	モータ過負荷（搬送・送風）	CdS外光感知

 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
CdS汚れ（感度不足）	エアフロースイッチ ショート	エアフロースイッチ 不導通
 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
バーナ異常	感震装置作動	高温サーモ不導通
 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]	 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]
気温サーミスタ断線	気温サーミスタショート	熱風サーミスタ断線
 <input type="checkbox"/> 水分[%] <input type="checkbox"/> 温度[°C] <input type="checkbox"/> タイマ[H]		
熱風サーミスタショート		

注 記

- 異常表示は、前頁・上記の文字が 1 秒ごとに点滅します。ただし、乾燥運転時に水分測定をした後に異常が起こった場合は、水分値も交互に表示します。
- 異常表示されたときは、本機は自動的に停止します。この場合は、いったん停止スイッチを押して、表示をクリアにしてください。
- 感震装置の作動による制御は、乾燥運転中のみです。

6.2 異常現象別処置要領

- ① 本機の各部が作動しないときは、故障と判断する前に、いったん停止スイッチを押して、本機を停止させた後、再度運転操作手順に従って運転してください。

注 記

- 穀物量ダイヤル2（張込量約400Kg）より少ない場合は、間欠循環で乾燥、通風します。
「乾燥運転」の項（45ページ）および「通風運転」の項（59ページ）を参照してください。

- ② 次ページの「異常処置の表」に従って点検・調節・整備をおこなってください。

異常処置の表

異常のようす	原因	処 置
電源ランプがつかない。	電源が入っていない。	元電源（ブレーカ、ヒューズ、コネクタ、コード）を調べて電源を入れる。
運転スイッチを押しても、本乾燥機が始動しない、または一部のモータが回らない。	<p>電源の断線または端子のねじのゆるみなどがある。</p> <p>デジタル表示部に E46 が表示される。</p> <p>モータコードのコネクタが抜けている。（接触不良）</p> <p>タイマがセットされていない。（タイマ運転の場合）</p> <p>サーキットプロテクタが働いた。</p> <p>メモリカードがセットされていない。</p>	<p>元電源（ブレーカ、ヒューズ、コネクタ、コード）を調べて断線や端子のゆるみなどを修理する。</p> <p>スクリーコンベヤ、昇降機の各モータの過負荷原因を取り除く。 (43・84・86 ページ参照)</p> <p>コネクタを差し込む。 (79 ページ参照)</p> <p>タイマをセットする。 (62 ページ参照)</p> <p>サーキットプロテクタを押す。(3個) (75 ページ参照)</p> <p>メモリカードを差し込む。 (76 ページ参照)</p>
乾燥スイッチを押しても本乾燥機が始動しない。	<p>デジタル表示部に E22 が表示される。</p> <p>エアフロースイッチがショートしている</p>	購入先へ連絡する。
バーナが着火しない。	<p>デジタル表示部に E12 が表示される。</p> <p>CdSがショートしている。</p>	購入先へ連絡する。

異常のようす	原因	処 置
バーナが着火しない。	デジタル表示部に E14 が表示される。 CdSが外部の光を感知している。	CdSがきちんと差し込まれているか点検する。 (77 ページ参照)
	デジタル表示部に E16 が表示される。 1.燃料切れまたは燃料タンクのコックが閉じている。 2.燃料配管にエアが入っている。 3.バーナのストレーナに水やゴミがたまっている。	燃料を補給する。 燃料のタンクのコックを開く。 エア抜きをする。 (36 ページ参照) ストレーナを分解掃除する。 (89 ページ参照)
	デジタル表示部に E25 が表示される。 1.バーナのコネクタ（バーナ側8P・操作盤側9P）が抜けている。（接触不良） 2.バーナファンが回っていない。 3.エアフロースイッチが作動しない。	コネクタを差し込む (79 ページ参照) 購入先へ連絡する。 購入先へ連絡する。
	デジタル表示部に E75 が表示される。 1.バーナのコネクタ（バーナ側8P・操作盤側9P）が抜けている。（接触不良） 2.バーナのコネクタ（6P）が抜けている。（接触不良） 3.高温サーモが作動しない。	コネクタを差し込む (79 ページ参照) コネクタを差し込む (79 ページ参照) 高温サーモのコネクタが差し込まれているか点検する。 購入先へ連絡する。

異常のようす	原因	処置
バーナが途中で消える。	デジタル表示部に E15 が表示される。 CdSが汚れている。	CdSの汚れをきれいな布で拭きとる。 (77 ページ参照)
	デジタル表示部に E16 が表示される。 1.燃料切れまたは燃料タンクのコックが閉じている。 2.燃料配管にエアが入っている。 3.バーナのストレーナに水やゴミがたまっている。	燃料を補給する。 燃料のタンクのコックを開く。 エア抜きをする。 (36 ページ参照) ストレーナを分解掃除する。 (89 ページ参照)
	デジタル表示部に E75 が表示される。 高温サーモが働いている。	張込ホッパ、ホッパふたおよび火炉カバーが開いてないか、また排風ダクトに抵抗がかかってないかを点検する。 (30・31 ページ参照)

異常のようす	原因	処 置
消火時、瞬時消火せず残り火がある。	燃料配管・ストレーナ・バーナフィードパイプにエアが混入している。	着火・消火を繰り返し、(乾燥スイッチを押して、バーナが着火したことを確認したのち停止スイッチを押す) 瞬時消火が確認されるまで、フィードパイプ内のエアを追い出す。(普通、10分間程度連続燃焼させれば、エアはぬけます。)
スクリーコンベヤまたは昇降機がつまる。 (E46表示)	昇降機バケット平ベルトのゆるみまたは片寄りがある。	調節する。 (84 ページ参照)
	リプスターベルトのゆるみがある。	ベルトを張る。 (88 ページ参照)
	昇降機バケットが破損または摩耗している。	バケットを交換するため、購入先へ連絡する。
	張込量が多すぎる。	規定の張込量以下にする。 (43 ページ参照)
	スクリーコンベヤ・昇降機に異物がかみ込んでいる。	異物を取り除く。

異常のようす	原因	処置
乾燥時間が長くかかり過ぎる。	乾燥前の水分が非常に高い。	初期水分をできるだけ正確に把握する。適期刈取りをする。
	排風ダクトの抵抗が大きく、風量が低下している。	排風ダクトをまっすぐに張り、抵抗がかからないようにする。 (30 ページ参照)
	熱風温度が低過ぎる。	穀物量ダイヤルを正規に合わせる。 (51 ページ参照)
	外気湿度が高過ぎる。	湿度90%以上のときは、穀物量ダイヤルの目盛を1ランク(6℃)上げて乾燥する。 (52 ページ参照)
	最低張込み量以下の少量乾燥のため、機内で吹抜けを起こしている。	最低張込み量以上に張り込んで乾燥する。
むら乾燥になる。	乾燥前の穀物の水分差が大きい。 未熟粒(青米)が多い。 (適期刈取りでない。)	初期水分の差が3~4%以上ある穀物は、別々に乾燥する。または、調質乾燥をする。 (27ページ参照)
	穀物の水分が高く、乾燥機の内面に張り付き、循環不良となる。 (適期刈取りでない。 表面が雨などでぬれて いる。)	なるべく少量で乾燥する。
	夾雑物(枝梗付着粒、わらくず、ごみ、草など)の混入が多い。	脱穀選別に十分注意し、夾雑物を取り除く。
胴割れ・碎米が多い。	乾燥前に脱ふ・半脱ふ籾が多い。 (適期刈取りでない 脱穀機の回転が速い)	刈取り時期と脱穀機の回転数に注意し、半脱ふ籾はできるだけ低温でゆっくり乾燥する。 (52 ページ参照)
	熱風温度が高過ぎる。	穀物量ダイヤルを正規に合わせる。 (51 ページ参照) 熱風サーミスタの取付けが完全か確認する。
	乾燥前の穀物の水分差が大きい。 (適期刈取りでない)	初期水分の差が3~4%以上ある穀物は、別々に乾燥する。または、調質乾燥をする。 (27ページ参照)

異常のようす	原因	処置
胴割れ・碎米が多い。	過乾燥。	「水分誤差がでる（過乾燥）」の欄参照。
	胴割れしやすい品種。 刈取り時期の遅れた籾。 （立毛中胴割れが多い）	穀物量ダイヤルの目盛を1ランク（6℃）下げて乾燥する。 （52ページ参照）
	外気湿度が低過ぎる。	湿度60%以下のときは、穀物量ダイヤルの目盛を1ランク（6℃）下げて乾燥する。 （52ページ参照）
	少量の籾を長時間乾燥した。	最低張込み量以上に張り込んで乾燥する。
	乾燥後の籾の処理が悪い。	乾燥後の籾は、急冷したり湿気を当てることは避ける。
水分誤差が出る。 （過乾燥）	乾燥前の穀物の水分差が大きい。 未熟粒（青米）が多い。 （適期刈取りでない）	初期水分の差が3～4%以上ある穀物は、別々に乾燥する。または、調質乾燥をする。 （27ページ参照）
	設定ダイヤルの設定ミス。	水分補正・穀物量・水分設定の各ダイヤルを正規に合わせる。 （49・51・53ページ参照）
	水分設定ダイヤルを「タイマ運転」にしたまま乾燥時間を長くかけ過ぎた。	水分設定ダイヤルを「タイマ運転」にしたときは、水分による停止はしないので、乾燥時間に注意する。
水分誤差が出る。 （水分過多）	乾燥前の穀物の水分差が大きい。 未熟粒（青米）が多い。 （適期刈取りでない）	初期水分の差が3～4%以上ある穀物は、別々に乾燥する。または、調質乾燥をする。 （27ページ参照）
	乾燥後の籾の処理が悪く、水分がもどった。	乾燥後は長期間貯留しない。
	むら乾燥。	「むら乾燥になる」の欄 （72ページ参照）
	昇降機バケット平ベルトのゆるみがある。	調節する。 （84ページ参照）
	昇降機下部にごみやわらくずがたまっている。	残留穀物の掃除をする。 （86ページ参照）

異常のようす	原因	処置
運転中灯油の臭いがする。	バーナが異常燃焼している。	購入先へ連絡する。
感電する。	アースをとっていない(切れている)。	アースをしっかりとる。 (39 ページ参照)
	配線その他の漏電。	本機を停止し、購入先へ連絡する。
本乾燥機が停止している。	デジタル表示部に E35 が表示している。	停止スイッチを押してください。
	地震などによるゆれを感知している。	地震等による異常が無い点検する。
	本乾燥機が傾いている。	本乾燥機を水平にする。

- 操作盤の修理は、購入先へ依頼してください。

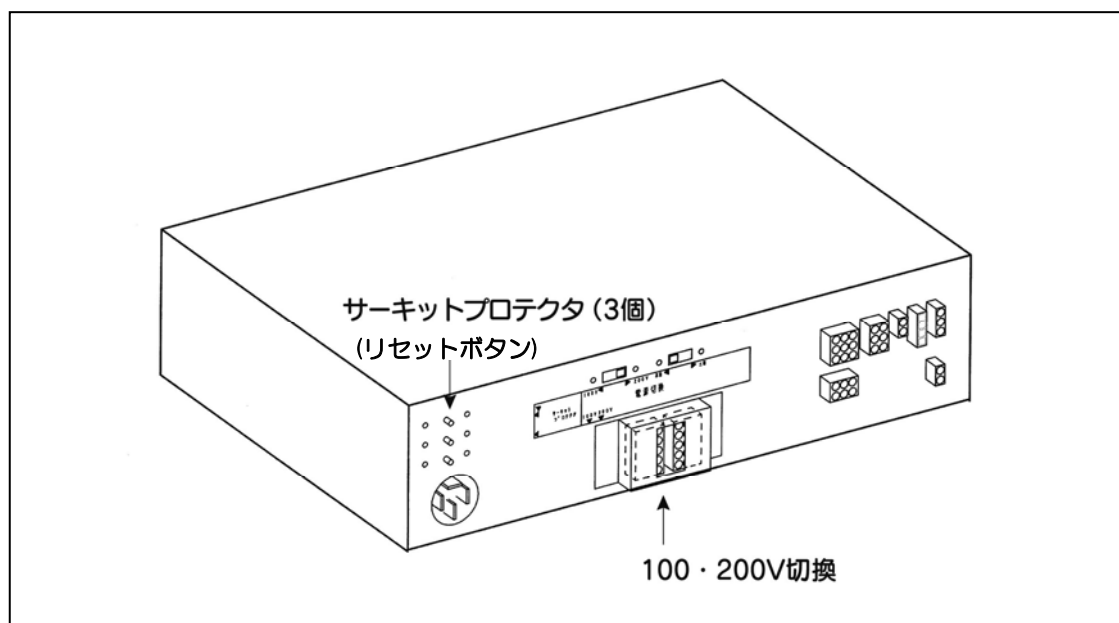
⚠ 注意

- 下箱中継コード、水分計コード、バーナコードは防鼠用コードになっているので、作業した手で目、鼻粘膜等を直接接触しないで下さい。コードに含まれている成分が皮膚・目・鼻粘膜等に付着すると、熱感を伴う刺激を起こす場合があります。

注意

- モータなどのチェックのときは、モータのコネクタをはずしておこなってください。機械を損傷することがあります。

6.3 操作盤の名称



(1) サークットプロテクタ

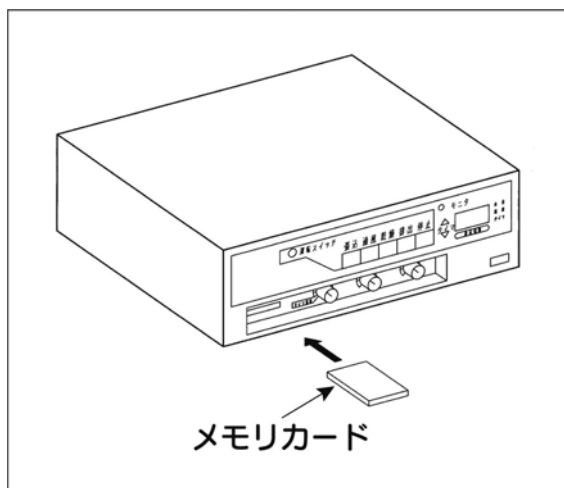
- 操作盤内の電子基板の焼損を防止するために 3Aのサーキットプロテクタを使用しています。
- 過電流が流れるとリセットボタンが飛び出し、全機能が停止します。復帰させるときはリセットボタンを押してください。

(2) 電源変更時の注意

- 操作盤の後面に 100・200V 切換スイッチとコネクタの 100・200V 切換があります。
- 電源を変更するときは、十分に確認してください。

(3) メモリカード

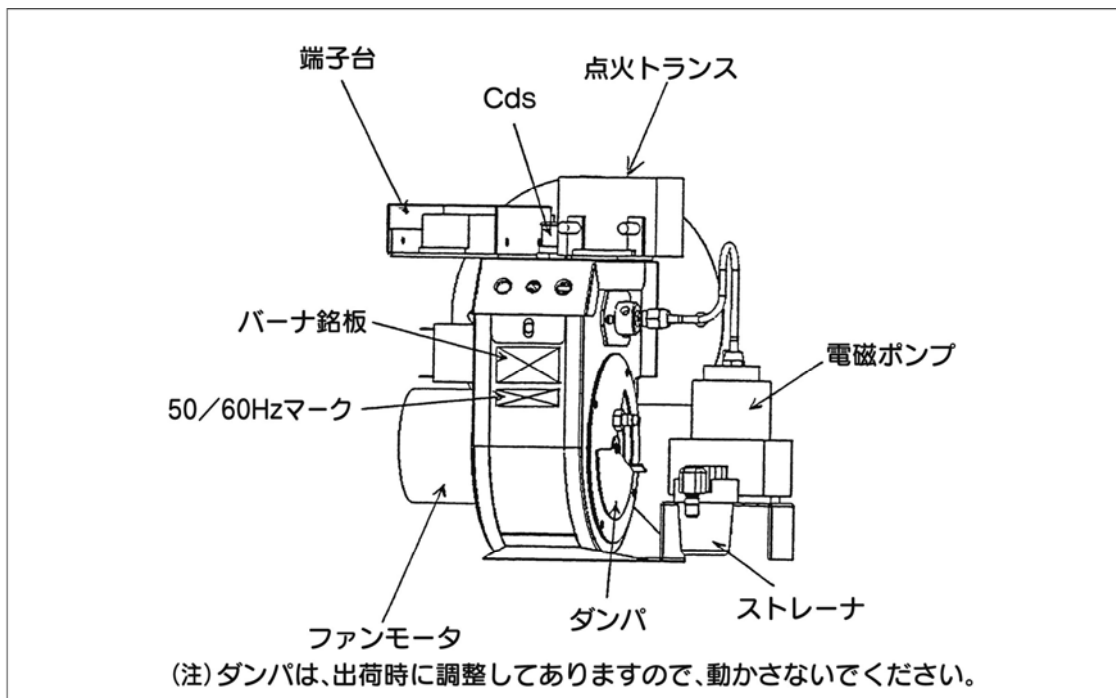
- メモリカードは、操作盤のマイコンの一部となるものです。
- メモリカードを抜き取った状態では、本機は始動しません。
- メモリカードは、点検時以外はなるべく取りはずさないでください。



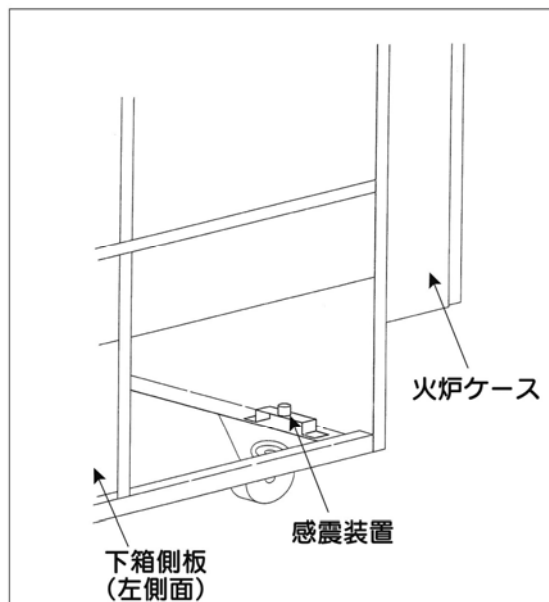
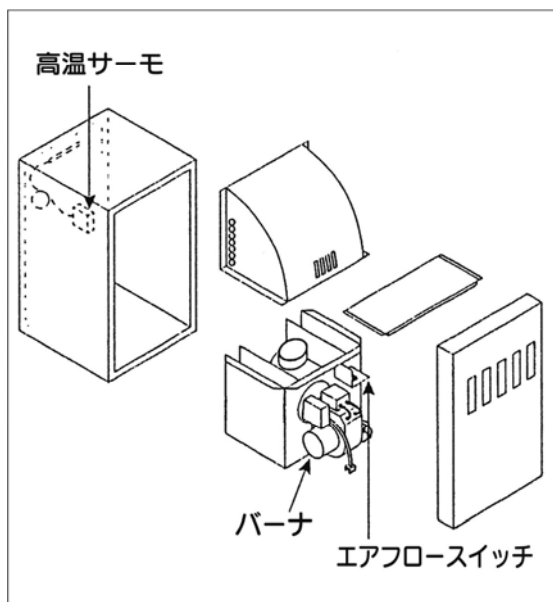
注意

- メモリカードの抜き差しは、必ず電源スイッチを「切」にした状態でおこなってください。メモリカードが故障して、本機の運転ができなくなることがあります。

6.4 バーナの名称



● バーナ安全装置



- (1) エアフロースイッチ
 - バーナファンの風量が低下すると、バーナのポンプを停止し、消火します。
- (2) 高温サーモ
 - 本機の吸引風量が低下すると、バーナのポンプが停止し、消火します。
- (3) 炎センサ (CdS)
 - バーナの炎を検知し、バーナ異常のときに運転を停止します。
- (4) 感震装置
 - 地震などによる揺れを感知し、乾燥運転を停止します。

警告

- サービスマン以外は、バーナ各部の分解・調節・整備をしないでください。火災の原因となる恐れがあります。
- バーナの炉体内部、熱風路内部、火炉カバー裏網および火炉ケース底網には、燃えやすいごみなどがたまっていないようによく掃除をしてください。火災の原因となる恐れがあります。
- バーナの安全装置をはずしての運転は、絶対にしないでください。火災の原因となる恐れがあります。

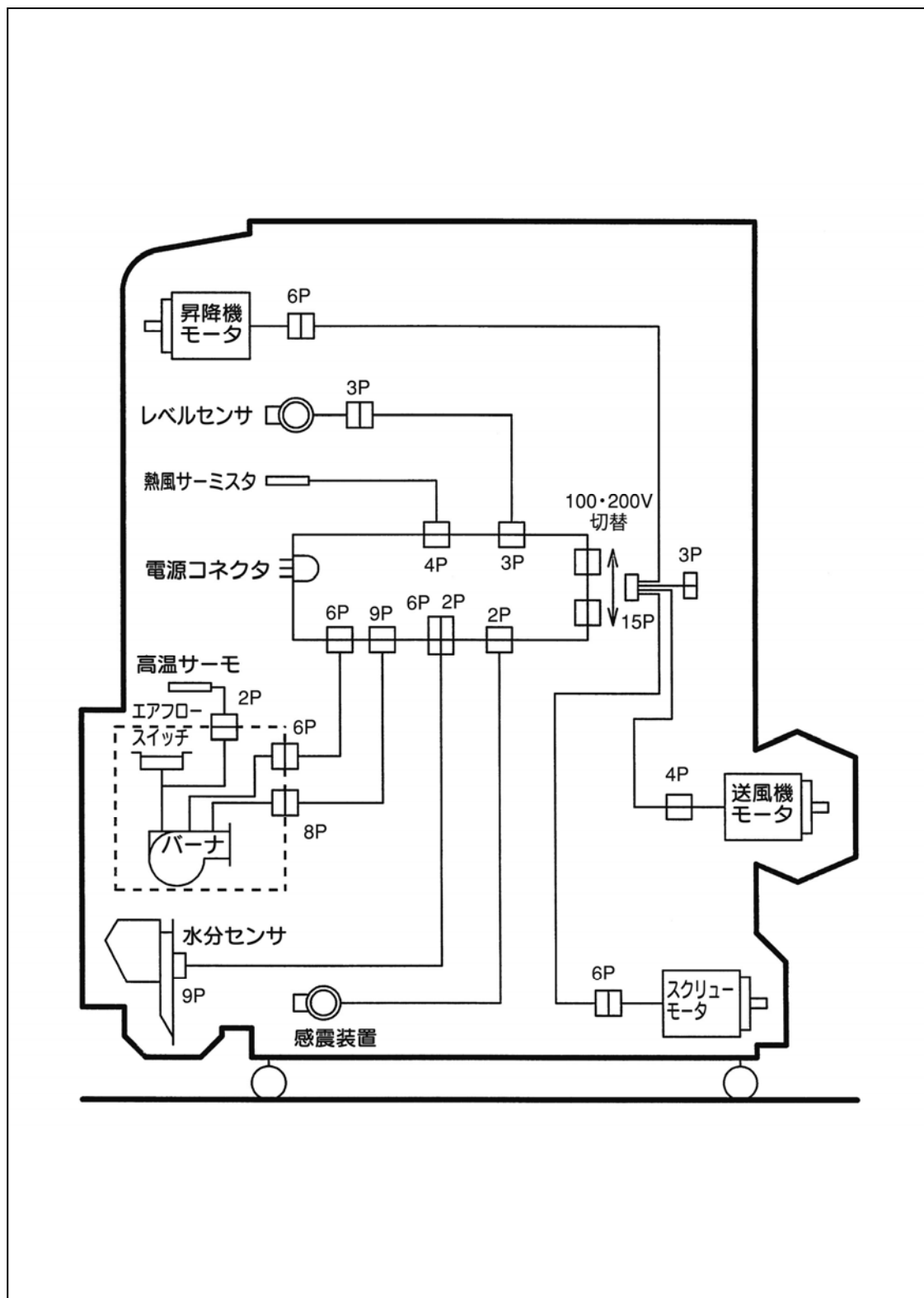
注意

- バーナ各部は汚れたままにしないでください。熱風温度の異常により胴割れなどにつながる可能性があります。

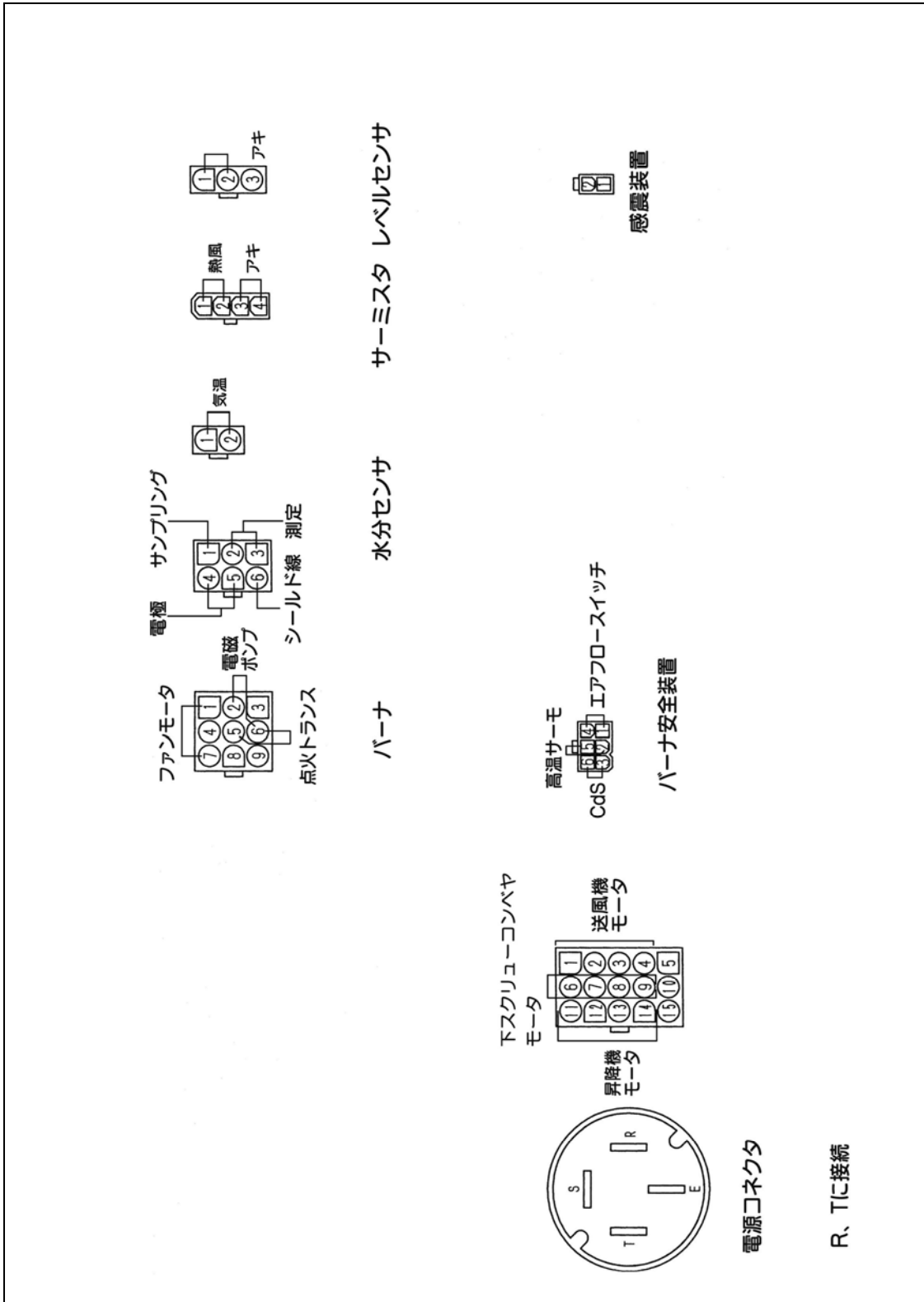
注 記

- 自動温度制御により、バーナ燃焼中に着火・消火を繰り返すことがありますが、異常ではありません。

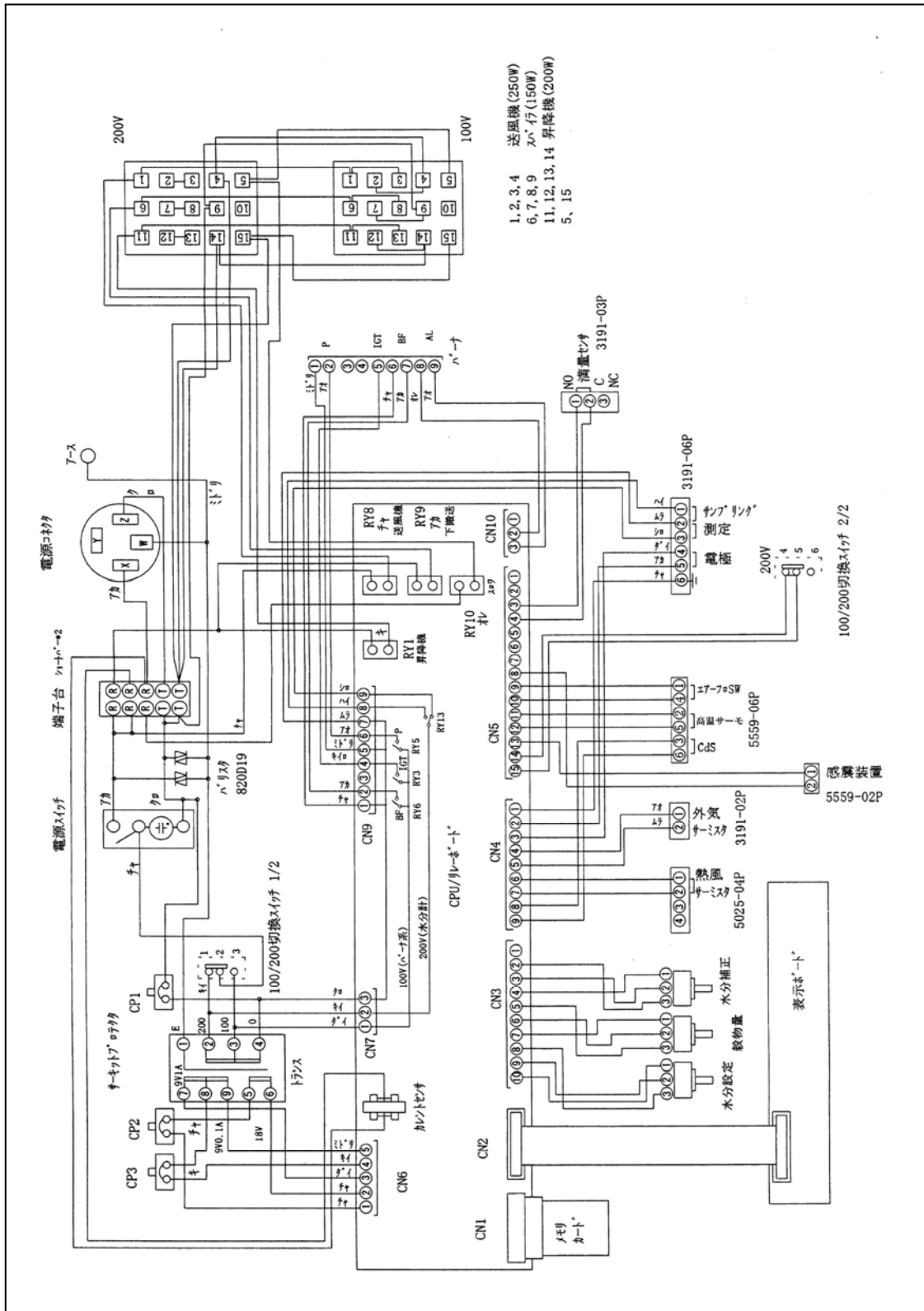
6.5 本体各部のコネクタ接続図



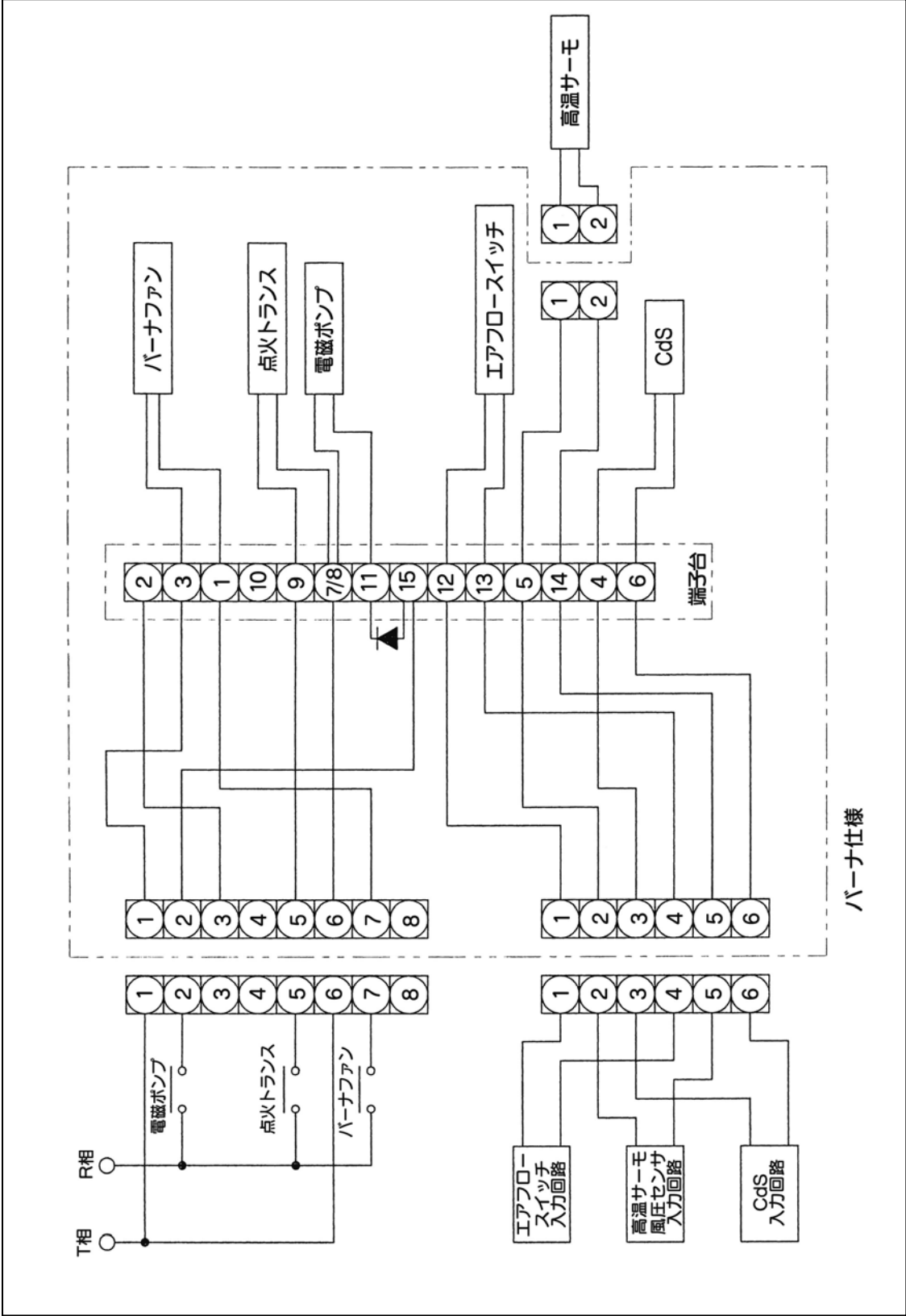
6.6 操作盤のコネクタ



6.7 配線図



6.8 バーナ配線図 (GK-14C)



第 7 章

点検・調節・整備

⚠ 危険

- 本機の点検・調節・整備をおこなうときは、必ず電源スイッチを「切」にし、元電源側のコンセントからプラグを抜いてください。感電による死亡事故につながる恐れがあります。また、誰かが誤ってスイッチを押してしまう恐れがあり、大変危険です。

⚠ 警告

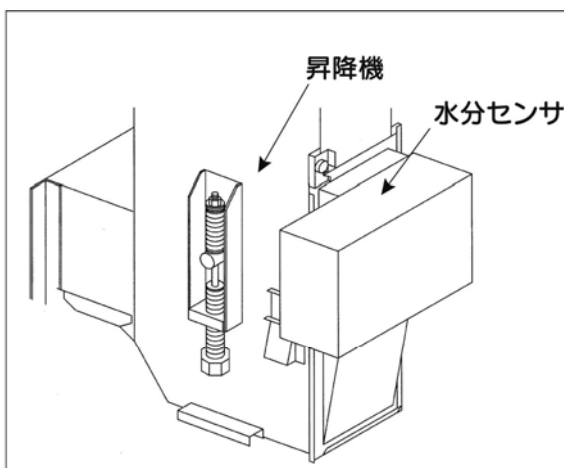
- 本機の点検・調節・整備をおこなうとき、本機内に照明が必要なときは、必ず懐中電灯を使用してください。コンセントから引いた電灯を本機内に入れると、鉄板の端などでコードが損傷して漏電し、重大な人身事故を起こす恐れがあります。

⚠ 注意

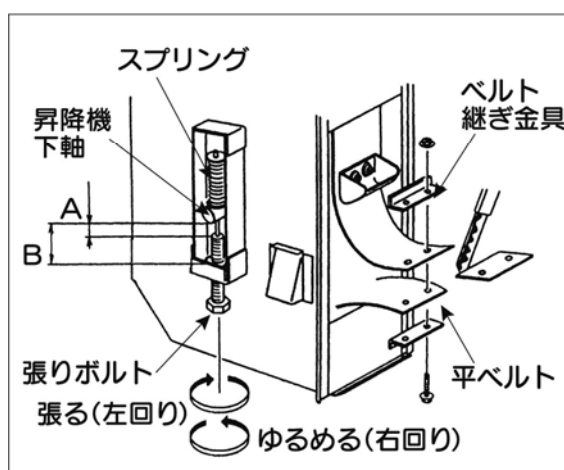
- 本機の点検・調節・整備のときに取りはずしたカバー類は、必ず元の位置に取り付けてください。けがをすることがあります。

7.1 昇降機バケット平ベルトの点検・調節

- 昇降機バケット平ベルトを点検するときは、水分センサを取りはずして、センサ取付口からおこなってください。
- 昇降機バケット平ベルトが片寄ったときは、左右の張りボルトで調節してください。
 - 平ベルトが片寄っている側の張りボルトを左に回すと、反対側にベルトが移動します。



- 昇降機バケット平ベルトには適当な張りが必要です。
 - 図のA寸法が10mmになるように張りボルトで張ってください。
 - 必要な張りがなくなると、モータへの負荷が大きくなって、デジタル表示部に「E46」を表示して停止したり、サンプリング不良により水分表示が実水分値より低めに表示されたりするようになります。



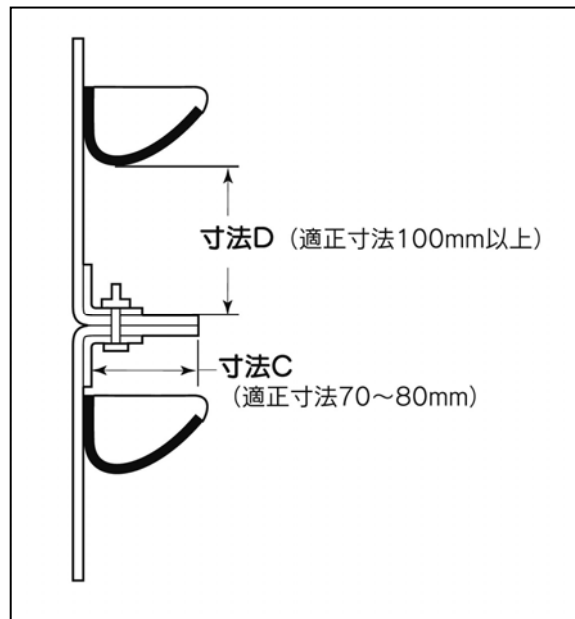
注 記

- バケットは再生可能な材質を使用しています。

- 昇降機バケット平ベルトが伸び過ぎて、張れなくなった場合は、次の要領で平ベルトをつめてください。図のB寸法が15mm以下になったら平ベルトは伸び過ぎです。
 - ① 張りボルトをゆるめてください。
 - ② ベルト継ぎ金具をはずしてください。

③ バケツを1個はずして、ベルト継ぎ金具で平ベルトを継いでください。

- 平ベルトの継ぎ代（図中C寸法）は、70～80mm 残して切り取ってください。
- 平ベルトの継ぎ目とすぐ上のバケツ底部との間隔（図中D寸法）を100mm 以上にしてください。



注 記

- 100mm よりせまいと水分センサのサンプル不良の原因となる恐れがあります。
- 100mm 以上になるように、必要ならバケツをはずしてください。

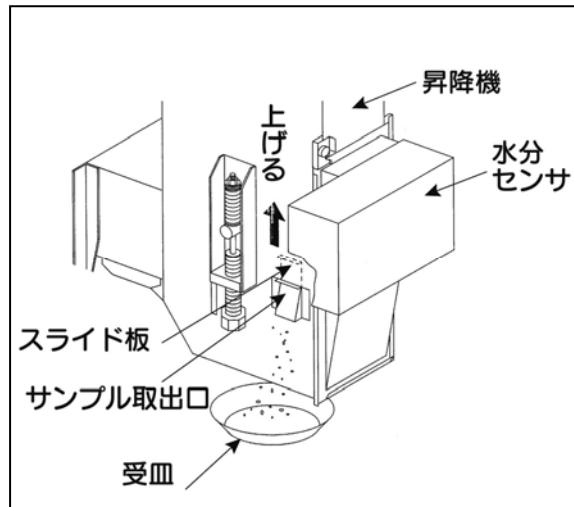
④ 張りボルトを回して、A寸法が10mmになるよう平ベルトを張ってください。

⑤ 手回して、バケツが昇降機の中央を走るように左右の張りボルトで調節してください。

⑥ 空運転をさせて、平ベルトの位置が片寄ったら、左右の張りボルトでさらに片寄りを調節してください。

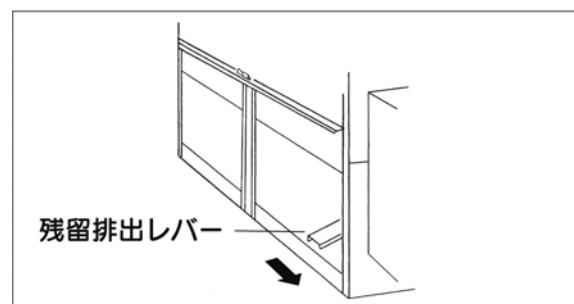
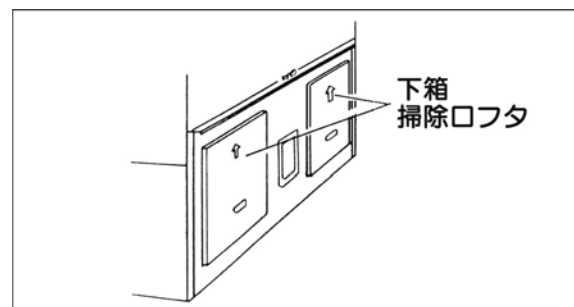
7.2 サンプルの取出し方

- 本機内の穀物のサンプルは、サンプル取出口から取り出します。
- 本機の運転中（乾燥、通風、排出運転）（昇降機バケット平ベルトが回転しているとき）に、サンプル取出口のスライド板を上引き上げると、サンプルを取り出すことができます。
 - 乾燥中の粉の水分を手持水分計で測定するときは、受皿などに取り、20分以上放冷してから粉すりをおこない、測定してください。

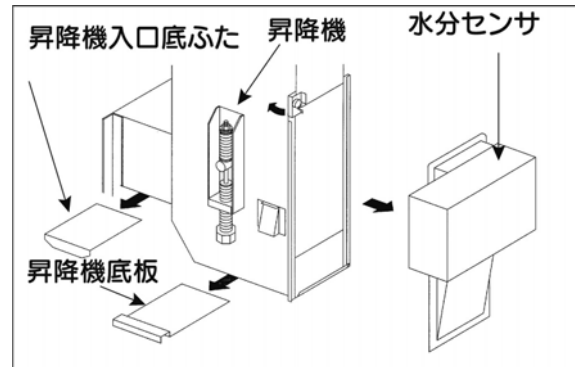


7.3 残留穀物・塵の掃除の方法

- 穀物が残留しやすいところには、掃除ふたや掃除レバーが付いています。保管時や異種穀物の乾燥前後に、次の要領で掃除をしてください。
 - ① 本機を排出運転して、できるだけ機内の穀物を排出してください。
 - 「排出運転の操作手順」の項（57 ページ）を参照してください。
 - ② 穀物がほとんど出なくなったら、本機を停止してください。
 - ③ 下箱掃除口フタ（2 個）をはずし、内部を掃除してください。
 - ④ 残留排出レバーを動かして残留穀物を落としてください。
 - 下箱側板の下部に残留排出レバーがあります。レバーを左右に動かしてください。スクリーコンベヤの底部（樋）が開いて残留穀物が下へ落ちます。



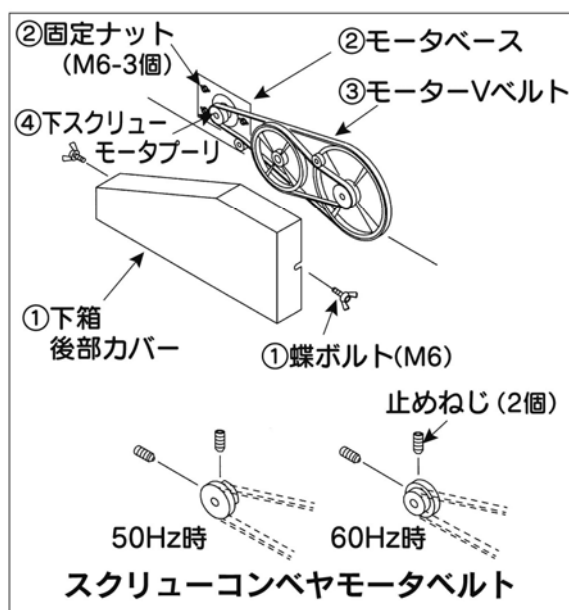
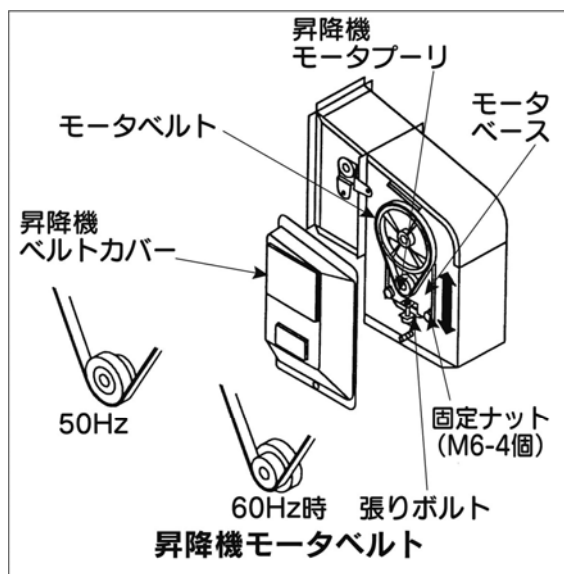
- ⑤ 昇降機入口底ふた、昇降機底板および水分センサをはずして、昇降機下部の残留穀物を外に排出してください。



- ⑥ 回転部に注意して、本機を再度排出運転してください。
- ⑦ 穀物がまったく出なくなったら、本機を停止してください。
- ⑧ 本機内の各部を点検して、残留穀物の残っているところを掃除してください。
- ⑨ 掃除口ふた、昇降機入口底ふた、昇降機底板および水分センサを元の位置に戻してください。

7.4 モータベルトの調節

- 昇降機のモータベルトは、特殊ベルト（リブスターベルト）のため、張力調節が重要です。ベルト中央付近を指で押して、5mm 程度へこむ状態が適当です。
スクリューコンベヤベルトは、ベルトの中央付近を指で押して 10mm～15mm 程度へこむ状態に調節してください。
- モータベースの固定ナットをゆるめて、調節してください。



注 記

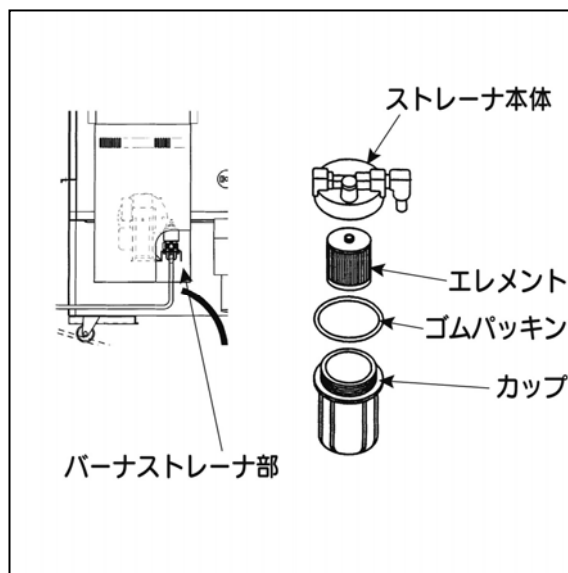
- ベルトの張りが弱いとスリップして穀物が詰まる原因となります。
- ベルトの張りが強過ぎるとモータのベアリングを傷める原因となります。

7.5 バーナストレーナの洗浄の方法

- バーナストレーナに水やごみがたまっていたら、ストレーナを分解して掃除をしてください。

洗浄は、下記の手順でおこなってください。

- ① カップを左に回してゆるめると、エレメントとゴムパッキンをはずすことができます。
- ② エレメントやカップをきれいな灯油で洗浄してください。
- ③ ①と逆の手順でカップを締め付けてください。このときカップに灯油をいっぱいに入れて組んでください。



7.6 消耗品

- 本機の部品で次の部品は消耗品となっております。
点検時消耗が激しいときには新品と交換してください。

No.	部品名	コード	数量	備考/ (交換の目安)
1	排塵フレキ	123330-230400	1	
2	排出フレキ	121040-503000	1	
3	送風機ダクト	121040-400600	1	
4	ベルト張り車	111212-20400	2	450時間
5	ベアリング6203ZZ	241160-006203	4	中間プーリ (2)、平プーリ120 (2) 450時間
6	VベルトLA-40	251310-040	1	中間プーリとVプーリ1A200A 300時間
7	VベルトLA-66	251310-066	1	下スクリーモータと中間軸プーリ 300時間
8	リプスターベルト	123240-190300	1	450時間
9	下スクリーコンベヤ	121040-102501	1	450時間
10	跳出し板	121094-102000	1	450時間
11	フェルト24×60×5	3CK060-02405	1	下スクリーコンベヤプーリ側 450時間
12	スパイラ軸受ケース	121070-1021B1	1	450時間
13	フェルト22×5	121070-920101	1	スパイラ軸受ケース 450時間
14	6203孔付ベアリングケース	121040-102100	2	下スクリーコンベヤ (1)、昇降機上箱 (1) 450時間
15	ベアリング6203UUJ	241140-006203	2	下スクリーコンベヤ (1)、昇降機上箱 (1) 450時間
16	6203ベアリングケース	121070-503100	1	昇降機上箱 450時間
17	ベアリング6203UUJ	241140-006203	1	昇降機上箱 450時間
18	平ベルト	121045-510800	1	450時間
19	バケット	121890-511000	22	450時間
20	オイルノズル60 (0.4G/H60° W)	237102-010040	1	450時間

第 8 章

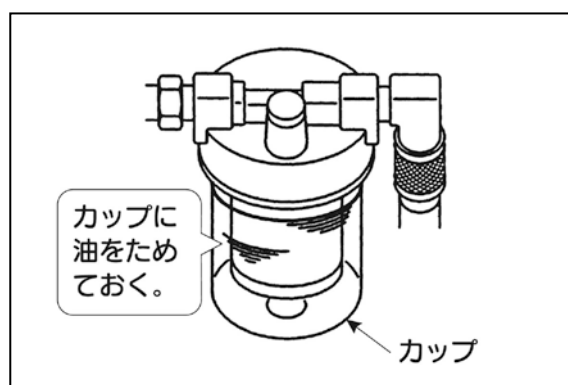
格 納 保 管

- 本機を当分の期間使用しないで格納する場合には、各部が長時間の保管に耐えられ、次回の再使用に際してスムーズに運転ができるよう、下記の要領で手当てをして保管することが必要です。

● 保管要領

(1) バーナストレーナ

- バーナの燃料ポンプ内部の乾燥を防止するため、バーナストレーナのカップに灯油をためた状態で保管してください。

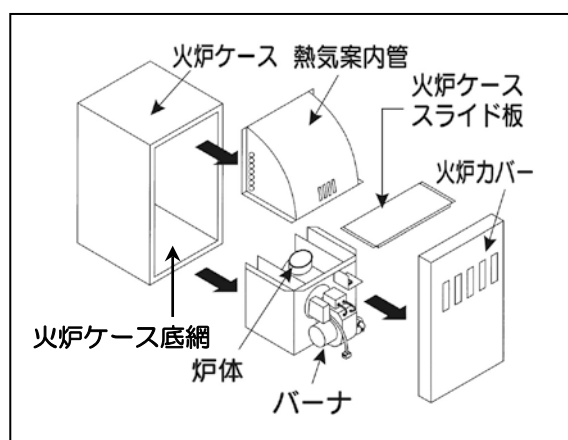


(2) 乾燥機内残留穀物の掃除

- 本機内部の残留穀物を排出して、きれいに掃除してください。
 - 「残留穀物の掃除の方法」の項（86 ページ）を参照してください。

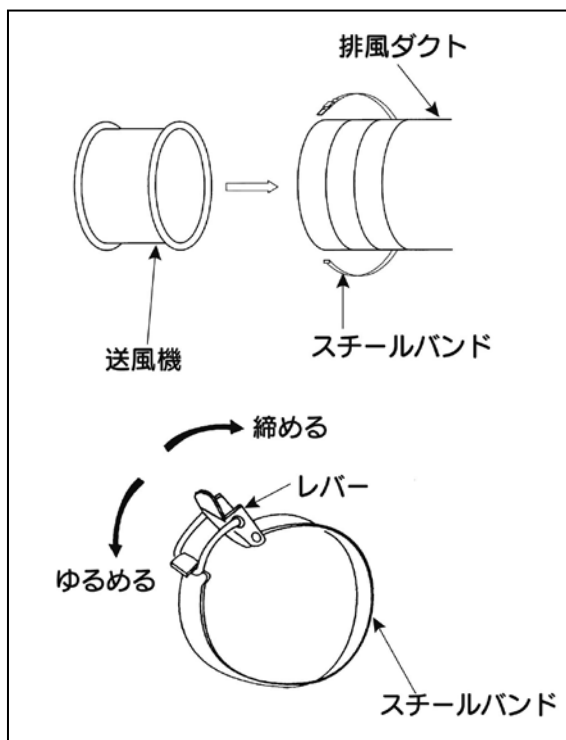
- #### (3) 火炉カバーをはずしてください。
- 火炉ケーススライド板と熱気案内管とバーナ本体をはずしてください。
- 炉体内部、火炉ケース内部、火炉ケース底網を掃除してください。

掃除が終わったら、各々の部品を元の位置に組んでください。

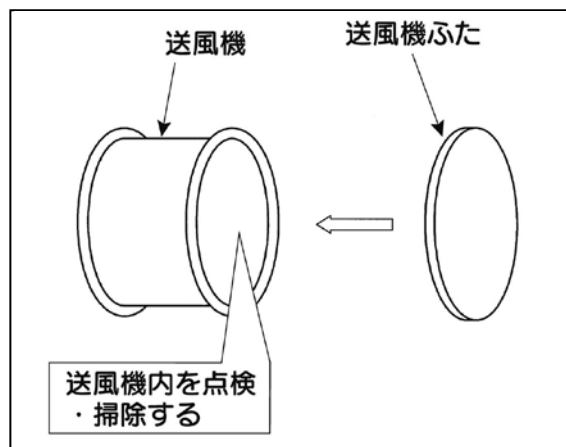


(4) 送風機

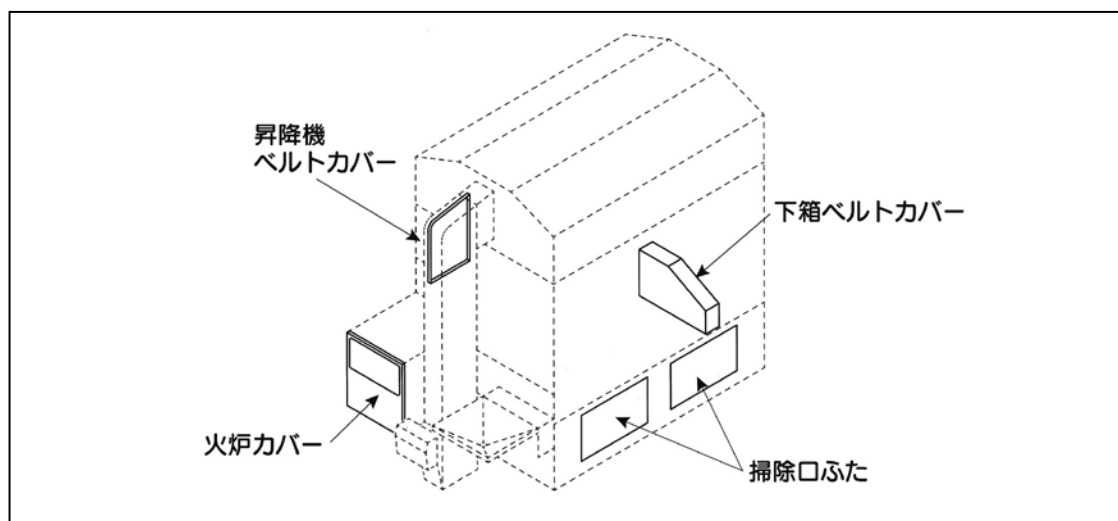
- ① スチールバンドをゆるめてはずしてください。
- ② 排風ダクトを取りはずしてください。
- ③ 送風機内を点検し、ごみなどがたまっていたら掃除をしてください。



- ④ ねずみ侵入防止のために、付属の送風機ふたを取り付けてください。

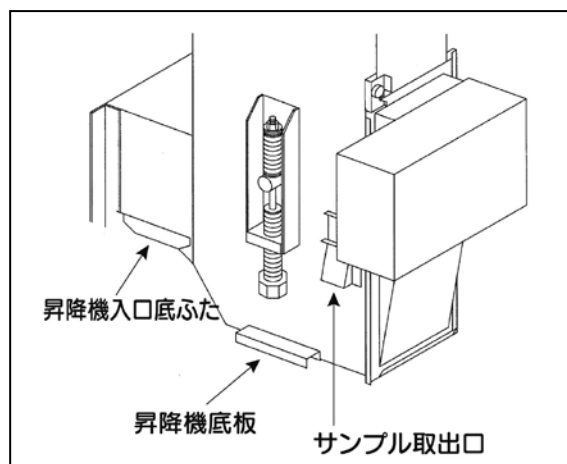


(5) その他のねずみ対策

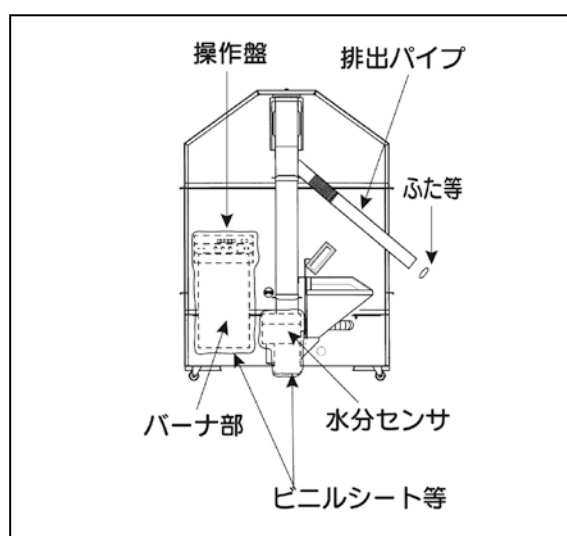


① 昇降機ベルトカバー、火炉カバー、掃除口ふたおよび下箱ベルトカバーが取り付けられていることを確認してください。

② 昇降機入口底ふた、サンプル取出口および昇降機底板が閉じていることを確認してください。



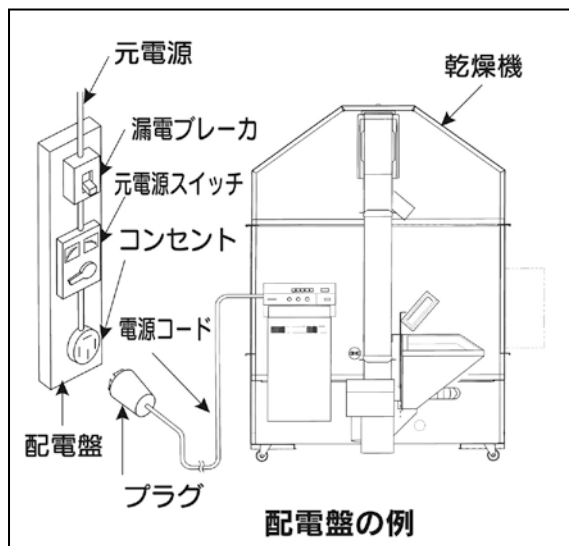
③ 排出パイプの出口にも、ねずみ侵入防止のために、適当なふたや栓等を取り付けてください。



(6) 電気部品

① 操作盤、水分センサ、バーナ部および各モータ部には、湿気や雨水などが入らないようにビニルシート等をかぶせて保管してください。

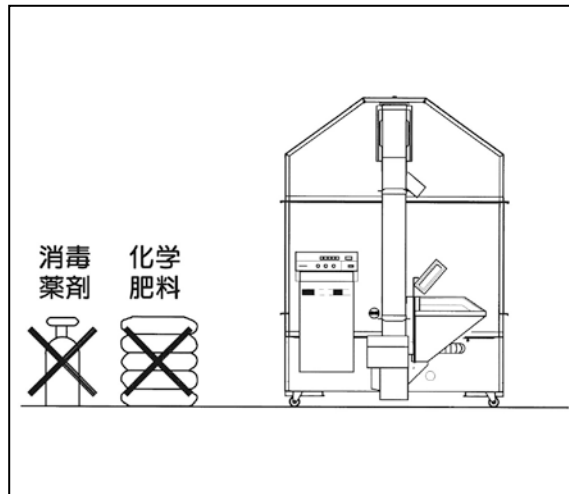
- ② 元電源側のコンセントからプラグを抜いておいてください。



注意

- 電源コードは元からはずしておいてください。電源コードを差し込んだまま長期間保管しておくと、雷などの影響で操作盤等が損傷することがあります。

- ③ 格納されている乾燥機の近くには、アンモニア、イオウ、塩素、酸などの化学肥料や消毒薬剤を置かないでください。



注意

- 本機のそばには、化学薬品類を置かないでください。化学薬品類を近づけると、反応を起こして、故障の原因になることがあります。

お客さま相談窓口

製造元	株式会社	山本製作所
農機事業部		☎ (0237) 43-8811
北海道営業所		☎ (0126) 22-1958
東北営業所		☎ (0237) 43-8828
関東営業所		☎ (0285) 25-2011
新潟営業所		☎ (025) 383-1018
東海営業所		☎ (0566) 75-8001
大阪営業所		☎ (06) 4863-7611
岡山営業所		☎ (086) 242-6690
四国営業所		☎ (087) 879-4555
九州営業所		☎ (096) 349-7040

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後12年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

解体・廃棄について

解体は、組立作業の逆の手順でおこなってください。
廃棄する部品は、分別して処分してください。

製造元 **株式会社 山本製作所**

本社 山形県天童市
東根事業所 〒999-3701 山形県東根市大字東根甲 5800-1
TEL (0237) 43-3411 (代)